
バカと墮天使と召喚獣

閃光の伯爵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカと墮天使と召喚獣

【NZコード】

N4729V

【作者名】

閃光の伯爵

【あらすじ】

元兵士の緋色?由比^{ヒヨコヤ}が学生として文月学園の生徒と過ごす物語。

現在、強化合宿編です。見てみるとありがたいです。

予習問題（始まりの序曲）（前書き）

有り得ない話ですがよろしくお願ひします。

予習問題（始まりの序曲）

予習問題

第0話始まりの序曲

アナザーセンチヤリー

AC_暦百九十七年、バートンの反乱の後の春。

俺の名は、緋色・由比。（ヒイロ・ユイ）

あくまで学生として過ごしている元ガンダムのパイロット。
しかし、戦った仲間達は、バートンの反乱後みなそれぞれの人生に戻った。戦争も終わり平和となつたため、学生としてすごしている。

そして通っているのは、文月学園。偶然と科学とオカルトによりできた新たなシステムの試験校である。そして、緋色の学生生活一年目の春から

新たな物語が今、紡がれる。

予想問題（始まりの序曲）（後書き）

更新ペースは決まっていません。文才も有りませんがよろしくお願
いします。

キャラクター紹介（前書き）

キャラクター紹介です。

キャラクター紹介

ヒヤローカイ
緋色由比

学力	Aクラス
性別	男
身長	原作より少し大きい。
体重	あまり変化なし。
クラス	Fクラス。

理由 試験中に眠ってしまいFクラスになってしまいます。
召喚獣 ウイングガンダム（ビームサーベル装備）に召喚獣
を組み合わせたかんじ。

腕輪 バスターライフル召喚と使用。

バスターライフル召喚に20点消費する。バスターライフル使用に
30点消費する。

威力は100ダメージ（最低）

リリーナとの関係

ovaの新機動戦記ガンダムW EWのファイナルシュー・ティングご
よりは会っていない。

デュオなどとはたまに連絡しあつていてる。（雑談メイン）。
ウイングゼロは破壊した。

キャラクター紹介（後書き）

最初からウイニングゼロはチートっぽいと思つたのでウイニングにしてみました。十分チートっぽいですが。

二学期になつたらウイニングゼロを降臨させよつとおもいます。

第一話（第一問）始まりの流星（前書き）

いつも第一話の投稿です。

第一話（第一回）始まりの流星

朝 校門前

「おはよひびきまーす」

「お前は誰だ？」

「転入生の緋色由比です。」

「お前が試験中居眠りしていた生徒か。この学園について説明を職員室でするからついてこい。」

「任務了解。」

移動中 しばらへお待ちください。

朝 職員室

「当学園は～～～（以下略）」

「はなす」と「十分？」

「ということだ。理解できたか、緋色？」

「はい、だいたいは。」

「ならば、自分の教室に向かえ。もうすぐHRがはじまるだ。」

「了解しました。任務を遂行します。」

「ところで、その話し方はなんだ。」

「昔からの癖でなかなかぬけないんですね。」

「わかった。急げ遅刻になるぞ。」

「先生はどちらに？」

「遅刻している観察処分者（学園の恥または、バカ代表）にこれを
わたさないといけない。」

といって封筒をピラピラと振る。

さて任務を開始する。田標一トーフ。緋色由比任務を遂行する

第一話（第一問）始まりの流星（後書き）

ヒヤロ
早速緋色が崩壊してしまいました。

次回 僕と翼と召喚獣

卓袱台と皿口紹介と仲間達。

第一話（第一問）卓袱台と皿口紹介と愉快な仲間達。（前書き）

第一話かけてみました。
皿口紹介編です。

第一話（第一問）卓袱台と自己紹介と愉快な仲間達。

一一一 F前

外から見て、途轍もなくぼろぼろぎる。このよつたな所で授業か。とりあえず先生がくるのを待つか。

十分後

「君は？」

「転入生の緋色由比です。」

「とりあえず呼ぶまで待つていてください。」

数分後

教室内

「このクラスに転入生がきます。」

「先生、もちろん女子ですよね？」

「男子です。」

「……………。せっかく俺達に春がきたとおもつたのに。」「デュオの相手よりも絶対大変だな。」「入ってきてください。」

教室に入ると、

男子4・6女子2不明1という圧倒的に男子がおおかつた。

設備は、古い卓袱台、古い座布団、カビ、キノコの生えた畳だった。第一感想は、学園長がどんな人かみてみたくなった。

「卓袱台と座布団は支給されますか？不備があつたら申し出してください。」

「すみません遅れちゃいました」

「早く座れウジ虫野郎」

「状況を考える」

「僕の扱い酷くない？」

「酷くない。」

「さつきから誰だ！僕を罵倒するのは。一人は雄一として、後一人

はだれだ。

「

「状況をよめといつている。

」

「はい。」

「

第一話（第一回）卓袱台と皿口紹介と愉快な仲間達。（後書き）

とても長くなってしまった。自己紹介に届かなかつたです。

第三話（第二回）バカと（真）自己紹介。（前書き）

前回以外にもとどかなかつです。今度こそ自己紹介です。

第三話（第二回）バカと（真）自己紹介。

「では、廊下側の人からおねがいします。」

「ワシは、演劇部所属の木下秀吉じゃ、一年間宣しくたのむぞ。ちなみに性別は男じや。」

彼は、男か。近くの（たぶん観察処分者）＝バカ＋問題児だらう。

「：土屋康太」

口数が少ないな。俺がいつていいのかは別にして。何人か自己紹介中。しばらくお待ちください。次は俺か。

「俺の名は、緋色由比一年間宣しく頼む。」

ふつうに終わらせ、席に戻る。

「三人自己紹介（省略）

「次は、僕だね。」

「僕の名前は吉井明久気軽にダーリンって呼んでね

「――「ダ――――――――リン」「――」

明久の顔が

「すみません、忘れてください。」

吉井明久か。あとで話をきいてみるか。

「――で読み書きが苦手です。趣味は、吉井明久を反殺しにすることです。」

「はるはるー吉井」

「あう島田さんか。」

あの一人、おかしい。

仲間なのだろうか。

数人自己紹介

その後

第三話（第二回）バカと（真）自己紹介。（後書き）

また終わりませんでした。 すみません。

第四話（第四回）バカと（本当の）自己紹介と懐かしい人。（前書き）

今更気付きましたが、タイトル間違っていました。

それはともかく、自己紹介第三話。試合戦争は次からの予定です。

第四話（第四問）バカと（本当の）自己紹介と懐かしい人。

「遅れてすみませーん。

「お口の紹介をお願いします」

「俺の名は、デュオ・マックスウェル。逃げや隠れたりするが、嘘
は言つまいぜ。一三間こちらへう。

デュオだと。何も聞いてなかつたが。

「ああ、お前はお前でいいんだから、お前がどう思っていいんだよ。」

卷之三

「いやー、それがさお前が学生やつらだと聞いてさ。俺も満喫して

みゆ：かなーとー／＼詰

「佛經」

「すみません。」

先生が教卓を叩く。そして教卓が散る。ついでにた

「オーライ」

「違う、今の俺は緋色由比だ。」

二 て読み方一 線しやねんか

卷之三

自己紹介中

「俺は、坂本雄一。好きに呼んでくれ。皆設備に不満はないか？」

卷之三

「前人二部」

「代表として提案するクラスに戦争を仕掛けようと思う。」

代表として提案するクラスは戦争を仕掛けたと思ふ。

第四話（第四回）バカと（本物の）自己紹介と懐かしい人。（後書き）

みなさんこんにちば、もししくは「んばんわ。ヒイロコイ役の緑川光
じやなくて作者の閃光の伯爵です。

ほとんどの人が姫路をだすとおもひたでしょ？ 姫路ファンの皆様
すみません。

なんか長くなつてしましました。そういうえば、ヒロインについてか
んがえてません。できれば意見をください。

第五話（第五回）バカと仲間と試召戦争。（前書き）

まさかのトコオ登場紹介は次にしたいとおもこます。

第五話（第五回）バカと仲間と試召戦争。

「俺達はAクラスに試召戦争をしかける事を提案する。」「試召戦争だつて」「無理に決まつている。」「姫路さんがいたらなにもいらない。」「おい、関係無いこというな。」「（こ）のクラス異常すぎないか緋色。」「根拠ならあるさ。今からそれを教えてやる。」「例えば、康太、いつまで姫路のスカートを覗いている…別に覗いてなんかいない。」「ムツツリーーだと。」「奴は、本当に実在してたのか。」
（（いつたいどんなやつなんだよ。））
「明久、姫路と、緋色とデュオが頭に？をうかべてるぞ。」「説明しよう。ムツツリーーとは男子には畏怖と敬畏を、女子には軽蔑されてるムツツリスケベの帝王なんだよ。」「ようするに犯罪者だな。」「ブンブン。」「ムツツリーニについてはいいな。そして、姫路がいる。ウチの主戦力だ。」「それに、緋色と、デュオがいる。こいつらは、ガンダムのバイロットだつた男だ。」「「なんでお前がしつている。（いるんだよー）」「俺の知り合いにいたんだよ。お前等にあつた奴が。」「まさか、ハワードか？」
「ああ。」「これはおじといで、そしてそこにはいる吉井明久だ。」「え？僕。」

第五話（第五回）バカと仲間とい試召戦争。（後書き）

また長くなつてしましました。次は宣戦布告までこゝりのむもこます。

第六話（第六問）バカと学園の恥と宣戦布告（前書き）

和泉の信田さん感想ありがとうござります。話のペース遅くてすみません。

第六話（第六問）バカと学園の恥と宣戦布告。

「「コイツの肩書きは観察処分者だ。」

「「（おい、）それってすごいんですか。（すばらしいのか。）」」

「「そうか三人は、しらないもんな。」

「「いや、理解している。」

「「ほう。さすがだな。」

「「観察処分者とは、簡単にいえば、教師の雑用、学園の恥、バカの中のバカにしか手に入らない肩書きだ。」

「「違うよ、ちょっとお茶目な十六歳の…」

「「違わない、バカの代名詞だ。」」

「「お前とは仲良くできそうだな。」

「「お前もな。」

「「まず、最初にクラスを叩く。明久お前はクラス大使として宣戦布告してこい。」

「「下位勢力の使者で大変なことになるよね？」

「「それは、二年前までだ。」

「「騙されたと思って逝つてこい。」

「「行かなかつたら、デュオあれを明久につかえ。^{バカ}」

「「りょーかい。腕がなるぜ。」

「「わかつたよ。いつてくるよ。」

数分後

「「だまされたー」

「「「やつぱりな。」」

「「お前らを殺す。」

「「懐かしいな、緋色。お前の名前^{ハガク}のひとつだ。
ばつ（明久が襲う音）

ドンッ（緋色が地面に押さえ込む音）

ブスつ（ビームサイズの柄で軽く刺す音）

「ぎいやああああ」（明久の悲鳴。
「お前、バカか？」）

第六話（第六問）バカと学園の恥と宣戦布告（後書き）

明久大変ですね。（笑）『デュオのビームサイズ』については、次で紹介します。

キャラクター紹介2（前書き）

今回はデュオ、ヒルデ、ゼクスの紹介です。

キャラクター紹介2

紹介2

デュオ・マックスウェル

身長 原作より少し大きい

体重あまり変化していない

目・髪 原作と同じ

性格 变化なし

顔 ほぼ同じ

召喚獣 ガンダムデスサイズみたいなもの

武器 ビームサイズ

バスター・シールド

一発10点消費

腕輪 ハイパー・ジャマー（透明化）一秒一点消費

ヒルデとは恋人関係で同棲している。

また、携帯用ビームサイズを常に持っている。

ヒルデ・ショバイカー

身長 少し伸びた。

体重 デュオ以外に公開できません

目・髪 变化なし

性格 变化なし

顔 少し大人っぽく

召喚獣 トーラスみたいな感じ

武器 ビームライフル

腕輪 ビームカノン

召喚・使用20点消費

クラス

デュオとは恋人関係。

デュオについたことにより転入。

ゼクス・マーキス

一年世界史教師

身長・体重 あまり変わってない

目 青

髪色 金髪

髪型 先を結んでいる。

顔 変わっていない。

召喚獣 エピオンみたいな召喚獣。

武装 ビームソード

ヒートロッド

腕輪 武装大型化

10秒5点消費

ノインとは結婚した。

リリーナとはしばらくあつていな。

キャラクター紹介2（後書き）

ゼクス登場。カトルとトロワはだすかわかりません。
随分前に出したアンケートは試合戦争までとします。

第七話（第七回）匂食と科学物質（前書き）

ト羅口は用事があつてひしんでもあせん。すみません

第七話（第七問）昼食と科学物質

4 時限目終了後

「デコオ、お前は、何はどうあるのか？」

ヒルで持てきてくれるは

卷之三

卷之三

「一〇、歐羅巴。」

「アユオ、ヒルダ屋上に逃げる

「「なんで？」

「これより異端審問会の準備をはじめる。同士達よ、デュオ・マッ

クスウエルをとらえるぞ。

「『』」

「紅色は元々才一絆に宦たへないか？」

卷之二

屋上

緋色 S i C e

これはい、かにちはかおきている

「ムサシノヨリ」
ノコバニリ

「糞せ吉井明久 よろしく。 三つ子」

リュオside

「おらおらー、俺をみた奴は皆臨死体験するぜーーー

といいながら、ビームサイズで「斬つて斬つて斬りまくるう！」

「デュオ、学生らしくしてよ。」

一悪い悪い、つい、昔の癖で

「何で人が倒れてんだ？」

(姫路さんの手料理のせいだよ)

アイコンタクトができるとはなかなかいい学校かもな。

第七話（第七問）昼食と科学物質（後書き）

さて、この後の犠牲者はだれでしょうか。
次回臨死体験と作戦会議と補給テスト

第八話（第八問）昼食と作戦会議と臨死体験（前書き）

できればWからもつと出でうつと思います。

第八話（第八問）昼食と作戦会議と臨死体験

第八話

緋色 side

「皆さん何をしているんですか？」布施先生登場

「昼食中です。」

「少し貰つていいですか？」

「僕たちは腹いっぱいなのでぜんぶいいですよ。」

「ポケットからタッパーとは常識はずれのきょうしだな。」

「あの、先生。容器」と持つていいですよ。」

「では放課後までにはかえします。」

「明久、戦争はいつからか？」

「午後からだよ。」

「姫路、緋色、デュオは補充試験を受け、姫路は突撃。二人はかえ

つてこい。」

「わかりました。」

「任務了解。任務を遂行する。」

「りよーかいと

「承知。」

「秀吉、ムツヅリーー、島田は前線でつっこめ。」

「…わかった。」

「わかつたわ」

「明久、お前は俺の護衛だ。」

「俺達のクラスは最強だ。」

Fクラス対Dクラス 戦争開始

「俺達は補給試験をうけるぞ。」

第八話（第八問）昼食と作戦会議と臨死体験（後書き）

試合戦争はじまりました。

もしかしたら、次でクラス戦終わるかもしれません。

第9話（第9回）戦争編スタート
（前書き）

試合戦争編スタート

第9話（第9問）戦争と作戦と流星

第9話（第9問）戦争と作戦と流星

「「「先生、補充試験を受けます！」」

「「分かった。このテストの点数が召喚獣の点数になるがよろしいか？」」

「「おい、ゼクス何故お前が此処にいる？」」

「私はゼクス・マーキス。世界史の教師だ！」

「お前が教師だったとは想像がつかないだろ！」

「この事は後にしてテストを受ける。」

「はい。」

「了解、任務を遂行する。」

「りょーかいつと。」

「では、始め！」

補充試験終了後

「それでは、がんばってこい！」

「「おいデュオ、（緋色）ゼクスが人を応援しているぞ。」」

Fクラス

「よく帰ってきたな二人とも」

「俺たちは何をすればいいのか？」

「そろそろ決着が着くはず」

「戦争終了！勝者Fクラス！」

「「「よっしゃああああ」」

Fクラスの勝利で終わつた。

第9話（第9回）戦争と作戦と流星（後書き）

ゼクス登場。ほかも出でたりと思こます

第十話（第十問）卑怯と変態と勝者の放課後（前書き）

十話連載達成。これからもよろしくお願ひします。

第十話（第十問）卑怯と変態と勝者の放課後

第十話 卑怯と変態と勝者の放課後

「それじゃ、戦後対談の開始だ。」

「設備交換は明日でいいか？ 今日は遅いから。」

「いや、交換はしなくていい。代わりに条件がある。Bクラスのエアコンの室外機をこわしてくれ。」

「ちょっとまつ…」

「デュオ、明久をだまらせろ。」

「すみませんでした。」

それを無視して対談のほうを見る。終わつたようだ。
緋色 side

「解散！ 明日にそなえとけよ。」

「ねえ、緋色、デュオ？ 一緒に帰らない？」

「そうしたいが、ゼクスによばれている。」「

「ゼクス？」

「世界史の教師だ。」

「あのゼクス先生に？」

「ああ。あのつてどれだ。」

「とても厳しいイケメンの先生だよ。」

「じゃあな。また明日」

「デュオ、いくぞ。」

「ああ」

「ゼクス先生いますか？」

「来い」

「失礼します」×2

「用事とはなんだ。ゼクス。」

「リリー・ナが事故にあった。下手したら冷凍睡眠行きだ。」

「なんだって」×2

第十話（第十問）卑怯と変態と勝者の放課後（後書き）

リーラー登場？ヒロインはリーラーではありません。バカテストについてアンケートをとらうとおもいます。

第十一話（第十一問）リリーナと病院とガンドームのパイロット（前書き）

リリーナにいつ たい何が？ 答えは次から

第十一話（第十一回）リリーナと病院とガントダムのパイロット

第11話

緋色 side

「リリーナが事故に？」

「ああ。私にはまだやるべきことがある。だからリリーナを頼むぞ。」

「了解。任務を遂行する。急ぐぞデュオ！」

「へいへい、ぞつこんつてやつね。」

「廊下は走るなよ。」

俺は廊下を走り抜けた。デュオは着いてこれでないみたいだ。

次の瞬間

誰かとぶつかった。

「痛いじゃない。ちゃんと前みて歩きなさいよ。」

「すまない。立てるか？」

「ありがと。」

そのときデュオがきた

「おいおい、緋色ー！リリーナお嬢様が大変じゃないのかよ？」

「お前、名前は？」

「木下優子よ。」

「すまなかつた、優子。」

「置いてくぞ緋色。それとも一人っきりで過ごしていいでもいいぞ。待ってる、すぐに追いつく。」

俺はまた走り出した

病院のある一室

リリーナ side

バンという大きなドアの開く音で田を覚ました。

そこには、ヒイロとデュオがいた。

「ヒイロー。」

「大丈夫カリーナ？」
「あなたは今何をしているの？」
「文月学園の生徒としてこいつといつしょにすゞしている。」
「あなたが学生？信じられない。」
「ノインとゼクスに聞けばわかる。」

第十一話（第十一回）リリーナと病院とガンダムのパイロット（後書き）

木下優子登場。ノインは物理の教師として出す予定です。この後どうなるかお楽しみに。

第十一話（第十一回）ヒロインと魔王と死神（前書き）

ノインなどこいつこはのちモビ

第十一話（第十一回）ヒロインと堕天使と死神

第12話

「おいおい、緋色なんでノイン隊長なんだ？」

「それは、ノインも文月学園の物理の教師だからだ。」「ゼクスがいたからもしやと思つて調べたら、当たつた。」

「ところで緋色、そろそろ帰らないとやばくないか？」

「悪いがリリー・ナ俺たちは帰らせてもらつ。」「

「さようなら、緋色」

「さようなら、リリーナ」

「一年前と同じ台詞つかつなよ。」

「急ぐぞ、デュオ」

「へいへい。」

帰り道

「おい緋色」

「なんだデュオ」

「あれって放課後ぶつかつた娘じゃないのか？」

「優子だったか？それがどうした？」

「少し待つてろ。片づけてくる。」

「待てよ、俺も手伝うぜ！」

「ねえ、お兄さん達と一緒にエメラルドの都までランデブーしないかい？」

「何時の時代の人間だ？お前等は？」

「おら、おらー死神と墮天使様の御通りだー」

「何者だ！」

「お前等を殺す。デュオ、俺にも一本貸してくれ。」

「ほらよ。お前にやるぜ。」

「ありがとなデュオ。お前が相手してくれないか？」

「いいが、お前は？」

「優子を守る。片づいたら帰つていいで。ヒルでが心配してるだろ
うから。」

緋色 side

「優子、大丈夫か?」

第十一話（第十一回）ヒロインと堕天使と死神（後書き）

不良と遭遇。なかなかBクラス戦いません。

第1-4話（第1-4回）ヒロインと魔王天使と帰り道（前書き）

緋色は優子ルートで行いつとおもこます。

第14話（第14問）ヒロインと墮天使と帰り道

第14問

緋色 side

「優子、だいじょうか?」

「足を少し痛めただけ。」

「立てるか?」

「うん」

「嘘つくな。けが人は別に我慢などしなくていい。」

「いや、大丈夫だから。」

「俺に気をつかわなくていい。乗れ」

「悪いわね。なら、おねがいね。」

「了解した。」

帰り道

「昔の貴方つてどんな人だつたの?」

「昔は気づいたら、アディン・ロウという奴と一緒に人を殺しながら仕事していた。どうした? 目が点になつてるぞ?」

「過去がすごいなーと思って」

「オペレーションメテオと言つ出来事をしつてるか?あのガンドムにのつていたのは、俺とさつきの奴デュオだ。」

「大変だつたみたいね。」

「今度はお前が話す番だ。」

「女子の秘密を詮索したらいけないってならわなかつた?」

「俺は、テロリストとして育てられた。だから知らない
家についたみたいね。」

第1-4話（第1-4回）ヒロインと墮天使と帰り道（後書き）

ところで、トコオの活躍は省略されてましたね。

第1-5話（第1-5回）ストーリーと脚本と木下家（前書き）

1-3話忘れてました。すみません。

第15話（第15回）ヒイロと優子と木下家

第15問

緋色 side

インター ホンを鳴らす。

ガチャつと扉の音がなる。

「どちら様でしょうか。」

「自分は一年クラスの緋色由比と言います。それはともかく、優子さんが足を怪我してるので治療をお願いできますか？」

「ごめんなさい。道具はあるけど、使い方分からなくて。」

応急処置ができない大人は初めてみたな。

「先に優子の部屋にいっててくれない？」

「それは、さすがに優子さんにご迷惑が掛かると思いますが

別にいいわよね？ 優子？」

「え…ええ。」

「お邪魔します。」

「お邪魔なんて、むしろ大歓迎よ。はい、救急箱。」

「ありがとうございます。優子、もう少しの辛抱だ。」

「う…うん」

「どうした？顔が赤いぞ？」

「そ…それは」

「聞かないでおくとするか」

よく考えたら女子とあまり交流はなかつたな。これが時代の変化か。

こんな事を考えながら部屋に入った。

第1-5話（第1-5回） レイロと優子と木下家（後書き）

優子の部屋に入った緋色。この後がどうなるか、お楽しみに。

第1-6話（第1-6回）レトロと優子と腐女子（前書き）

15話連載記念。なにもする気はないですが。そういう事でしてほしいことがあつたら送ってきてください。感想もお待ちしております。

第16話（第16回）レイロと優子と腐女子

第16話

緋色 side

ボーアズラブ

部屋ひ入つたら、B-Lの本や、脱ぎ捨てられたジャージがあつた。

「ほつ、女子はB-Lが好きなのか。」

「みんなは知らないけど。私は面白ことおもうわ。」

「みんなにばらして…」

「やめて、それだけは」（涙田 + 上田遺い）

「もともとばらしたりしないが、今のが可愛かつたからいいか。」

「緋色、緋色にとつて私は可愛い？」

「ああ、もちろん。昔のあの子に似てて少し罪悪感があるが。」

「昔のあの子？」

「ああ。おれのせいで死んだ少女だ。」

「私どどこがにてるの？」

「純粹で可愛い笑顔が。」

「緋色、私と付き合つてください。」

「お前がいいのならいいが。キスでもするか、証として。」

といつて唇を重ねる。

ガチャつと音がなり

「二人ともお茶いる？ごめんねー。邪魔して。せつかくだから泊ま

つていつたら？着替えを持つてるんでしょ？」

「はい。なら、お言葉に甘えさせていただきます。」

第1-6話（第1-6回）レトロと優子と腐女子（後書き）

すみません。無茶苦茶でした。次は朝の話ですね。

第17話（第17回）木下家の夜と添い寝と暴走（前書き）

最近緋色がバカみたいに崩壊してゐる気がします。

第17話（第17回）木下家の夜と添い寝と暴走

第17問

「ところで、何処で寝るの？ やっぱり、優子の部屋？」
「別にどこでもいいです。そんなワガママを言ひ権利はありませんので。」

「なら、優子と同じベッドで寝たら？ ここでしょ、優子？」
「緋色がいいってこうな？」「…」

「俺は大歓迎だ。」「…」
「なら、おやすみなさい。」「…」
「朝ご飯は俺が作らせてください。泊まらせてくれるお礼をしないといけないので。」「…」

「悪いけどおねがいね。」「…」

優子母退場。

「優子、俺が隣でいいのか？」「…」
「もちろん。にしてもなんかすこいわね。」「…」

「なにがだ？」「…」

「今日、初めてあつたのに付き合つたなんて。」「…」

「しまつた！」「…」

「優子、すまない。明田の俺は生きて会えるか分からない？」「…」

「なんで？」「…」

「クラスメイトが嫉妬により暴走するからだ。」「…」

「私も手伝つわ。」「…」

「すまない。おやすみ、優子」「…」

「いきなり話題かえないでよ。」「…」

「そろそろ寝ると思つたからな。」「…」

「なら、腕貸して。あたし、ひいろの腕を抱いて寝る。」「…」

「優子が寝息を立てて寝てる。」「…」

写真を撮つて寝た。

第17話（第17回）木下家の夜と添い寝と暴走（後書き）

前回に続きベタな話でした。次回学校までいけるかな？

第1-8話（第1-8回）木下家の朝と登校と暴走（前書き）

さあ、このカッフルが無事に学校に着くのでしょうか。

第18話（第18回）木下家の朝と登校と暴走

第18話

木下家 朝

緋色side

目が覚めると優子に抱きつかれていた。

「優子、悪いがどいてくれないか。」

「いや、ずっとこうしている。」

「下着見えるぞ」

もちろん嘘だが

「緋色だから問題ない」

「秀吉、助けてくれ！」

「どうしようかのつー」「ヤーヤ

「助けないと朝食、昼食抜きだぞ！」

「なぜじやー」

「お前のカーセんにたのまれたからだ。だから頼む」

「優子、俺はしつこい女は嫌いだ。」（緋色の声マネ）

「私のこと嫌い、緋色？」

「もちろん好きにきまつてこる。」

「わかった。ぐぐ。」

「ありがと、優子。ついでにさつきの台詞いつたのは、秀吉だ。」

「俺は朝食でもつくるか。」数10分後

「とてもおいしい。」

「とてもおいしいのじや」

20分後

「いくぞ、優子。」

「うん、緋色手を繋いでい。」

「警戒しておけよ。お前は俺がまもるが。」

シユツ ザクツ

カツターがきに食い込む。

「優子すまない。」

「な、なに。」

優子を横にして持ち上げる。そしてにげる。

第18話（第18回）木下家の朝と登校と暴走（後書き）

第一回サバイバル大会スタート

第1-9話（第1-9回）カッフルの朝と登校と暴走（前書き）

学校に無事つけるか。スタートです。

第19話（第19問）カップルの朝と登校と暴走

第19問

緋色 side

今、おれは優子を横に抱いてはしつている。俗にいうお姫様だつてこ
とこやつである。

取り寄せたバスター・ライフル（人サイズ）を使いたいが、場合によ
つては優子に被害がでるためつかわないでいる。

こんなこと考えながら走っていて軽くカッター二十本はよけた気が
するが問題ない

少しでも優子をみたら走れないことになりそつた気がするので視界
にいれずはしつっている。

逃走すること一十分やつと校門に着いた。

「どうした？ 緋色、お前が女子をさらうなんて。」

「先生、違います。」

「お前等は付き合っていたのか？ 色恋沙汰までは言わないが、授業
をなまけないように。」

「はい。先生また後で。」

急いで教室に向かう。

そしてレーダーを見ながら、敵を待つ。

「やつた。いちばんのりだー」

「ターゲットロックオン、はかいする。」

「ぎやあああああ

明久の断末魔の叫びをBGMに凶戦士達が襲いかかってくる。
バスター・ライフルを放った。黒い山があつたが気にしなかつたが

第1-9話（第1-9問）カップルの朝と登校と暴走（後書き）

次回Bクラス戦の予定です。トロワあたりを出そうかと思つています。

第20話（第20回）卑怯ひ恋戀と鬼畜野郎（前書き）

二十話連載記念。五十話までに書いて欲しい話があつたらおねがいします。

第20話（第20回）卑怯と変態と鬼畜野郎

第二十話 燃え尽きない流星？

緋色 side

「おい、明久Bクラスに宣戦布告にいつてこい。」

明久の状態を気にせず雄一が言つ。

「待つてよ！雄一」。僕の状態をみて、なぜ、そんな台詞がでるんだよ？」

「だつて、緋色のバスター・ライフルをモロに喰らつただけだろ？」

だけではすまないとと思うが？

「おい、明久、もし行つてくれたら、お前が大好きな姫路に告白する権利をやる。」

適当に言つてみる

「でも、姫路さんに迷惑だし、みんなに襲われるじゃないか？」

「おはよー、みんなー」

デュオか、ちょうど良い

「おい、デュオ！明久が告白するらしいからじゃまな奴を撤去するぞ。」

「？」解

「緋色、どういう状況じゃ？」

「明久ーするのは放課後にしろーとりあえず行つてくれ。」

「いつてくるよ。」

数分後

「ねえ、雄一！Bクラスつて美少年ずきつていつてたのになんで襲つてくるか、理由を聞こつか？」

「お前がおもしろいから。」「」

「貴様等殺しきるー」

はあああ（明久が襲う声）

バアアン（バスター・ライフルの発射音）

ガンガンガンガン（雄二が明久を蹴る音）

どさつ（デュオが屍の山に載せる音）

「死体44体いつちょあがりー」「」

第20話（第20回） 春去る恋戀と鬼畜野郎（後書き）

「ユウと緋色と雄一のすみれこハネーション」

第21話（第21問）昼食と薬と墮天使（前書き）

Bクラス戦スタート（の予定です）

第21話（第21問）昼食と薬と墮天使

第21問

「明久、戦争はいつからか?」

「午後からだよ。」

「午後からか。ならいける。デュオ、悪いが姫路のボディガードあたりになつてくれないか?」

「なんで姫路さんなの?」

「「自分の頭をつかえ!」「

「午後からなら飯にしようぜ!」

「ああ。」

「おい明久、秀吉が女になつたらどうする?」「きゅううううううしたの?緋色?」

「あいつの飯に性転換薬をまぜておいた。」

「ほんとに?でも秀吉は迷惑じゃないの?」

「戻す薬もちゃんとある。」

「さすが緋色ー...といひで早く行こいつ。塩水が僕らを待つていいー。」

「お前だけだ。」

屋上

ばた。

「秀吉、どうした?」「

「少し眠つてもうつていいだけだ。」

「緋色!」

「秀吉を少しかりるぞ。」

「理由を説明しろ。」

「明久、たのんだ。」

「頼まれた。みんなよく聞いて秀吉はこれから女になるんだ。」

第21話（第21問）昼食と薬と墮天使（後書き）

秀吉が女になつてしまひました。

第22話（第22回）秀吉と織田と桂輪換（前編）

秀吉視点でいきます。

第22話（第22畳）秀吉と薬と性転換

第22問

秀吉 side

「こじは、たぶん、空き教室じゃな。じゃがなぜ此処にいるのじゃうか？」

「緋色！ わしは一体？」

「俺のせいでおまえは女になつた。」

「なんじやと。」

「もし、こやなりの薬を飲め、そいつすれば男に戻れる。早くしたほうがいい。ついでに優子とお前の母さんの許可は得た。」

「わしは、このままでいいのじや。今から女なのじやから、明久を好きでいても自然じやからのい。」

「やはりな。ついでに今晚の「ロースド」の薬はでる。せやく戻るぞ、秀吉。」

「わかつたのじやー。」

屋上

「すまぬ、またせたのい。」

「迷惑かけてすまない。」

「明久よ、」

「何、秀吉？」

「わしどつき合つてくれぬかのい？」

「僕なんかによければよろこんだ。」

「えー」

島田、姫路、すまぬのい。

「やつぱりな。」

なこ、気付かれていたのじやとー

「おめでとう。明久」

「デコオはともかく、ムツシローと雄一が素直に祝福するなんて

意外だね

「しつれいな」

「ところで、姫路に皆田はもうこいのか？」

「あ、わすれていたよ。」

第22話（第22回）秀吉と織田と豊臣と戦争（後編）

また、すぐ結ばれちゃいました。すみません。感想、お待ちしておきます。

第23話（第23回）処刑と作戦会議と僕の関節（前書き）

姫路と島田はどうなるか。また、Bクラス戦は？文才ありませんが、宜しくおねがいします。

第23話（第23問）処刑と作戦会議と僕の関節

第22問

緋色 side

「それはないだろ、明久。」

「姫路さん、ごめんなさい。」

「私は明久君には、明久君のつき合いたい人と付き合えればいいともいます。しかし、諦めていないので、破局したら、私と付き合つてください。」

「破局したら、よろこんで。」

ゴキツ

「ぐわああああ。腕の間接がー。さては美波かー。あれ？ 美波じやない。秀吉が、そんな訳するはずがないよ。」

「いいや、わしじや。すまぬ、明久が破局後の話をしてたから、つい。明久、わしのこときらいかのう？」

明久が秀吉を抱きしめて頭を撫でながら言つ

「僕は秀吉を嫌いにならない。ずっと、秀吉を愛している。」

「天然たらしだな。」

「なんで、僕がたらしなの？」

「Bクラス戦についてだが、」

「待てい、僕と秀吉はもちろん一緒だよね？」

「当然だ。」

「緋色はバスター・ライフルで敵を掃討する。ある程度減らしたら、補給試験に行つてこい。」

「了解。」

「デュオは緋色の補給中に突破してくれ。そして、追いつめたら緋色と一緒にクラスの壁にヒビをいれ、明久が奇襲する。」「よつしゃー、斬つて斬つて斬りまくるー！」

「それ、怒られるのは、僕だよね？」

第23話（第23問）処刑と作戦会議と僕の関節（後書き）

早くて次からBクラス戦です。

第24話（第24問）作戦会議と嫉妬と処刑（前書き）

作戦会議編？ 第2弾スタート。

同時に書いている。僕と親友と召喚獣も宜しくお願いします。

第24話（第24問）作戦会議と嫉妬と処刑

第24問

「でも、怒られるのつて、僕だよね？」
「だが、秀吉の看護がある。」

「この僕にまかせる。」

「そういえば、お前の好みは、巨乳でボーネールじゃないのか？」

「それは、一次的な趣味で、現実はちがうからね。秀吉。」

「なら、キスしてほしいのじゃ。」

「なんで、そうなるの？」

「わしの事きらいかのう？」（涙目 + 上目遣い）

「違うよ。僕は、周りに誰もいないならいいけど、」

「みんな、明久と秀吉を置いて解散！」

戦争 開始前

「根本には彼女がいる。憎くないか？」

「殺せええー！」

「一緒にいちやつきながら飯を食べているんだぞ！」

「なんだつて――！」

「しかも、昼飯は彼女の手作りだ！」

「彼奴を殺してやる。」

「皆、だから、緋色に敵陣に穴を開けてもらいたイコオが切り開く。

その後に突撃してくれ。報酬は、根本の破局だ。」

「イエス、マイロードー！」

「よし、根本を処刑するぞー。」

「うおおおおおお！」

第24話（第24問）作戦会議と嫉妬と処刑（後書き）

報酬すごいですね。次回クラスB戦スタート

第25話（第25問）敵代表と死神と墮天使（前書き）

クラス戦スタートある程度省略して書かせていただきます。

第25話（第25問）敵代表と死神と墮天使

第25問

緋色 side

廊下

「一年Fクラス緋色由比が此処にいる生徒すべてに物理勝負を申し込みます。サモン」

緋色由比 Fクラス

物理837点

「ターゲットロックオン。破壊する。」

Bクラス生徒 10人 戦死

「なんだ、あの化け物、退けー」

「遅い」

バスターライフルから熱戦ができる。

Bクラス生徒 10人 戦死

クラス教室前廊下

「緋色、俺にも仕事くれよ。」

「なら、お前がやれおれは先にいくぞ。」

デュオ side

「了解。こちらデュオ・マックスウェル斬つて斬つてきりまくるー！此処にいる生徒全員に数学勝負を申し込む。サモン」

デュオ・マックスウェル

数学 768点

「彼奴、化け物だ！」

「俺をみた奴はみんなしぬぜー。」

「消えた！」

「死神様の御通りだー！」

ぎゃー × 15

「戦死者は補修ー！」

「戦死者は補修ー！」

「」苦労さまです。ガトー・小佐

「ああ、デコオ、がんばるんだな。

「さて、緋色の場所にいきますか。」

」

第25話（第25問）敵代表と死神と墮天使（後書き）

次回Bクラス戦決着の予定です。

第26話（第26問）敵代表と女装と漁夫の利（前書き）

Bクラス戦決着の予定。

第26話（第26問）敵代表と女装と漁夫の利

第26問

緋色 side

「戦争終了——！」

「「早いよー！」」

Bクラス教室

「戦後対談と処刑の時間だ」「「根本を殺せ——.」「」「みんな、待つんだ。対談が終わって用事を済ませた後だ。クラスの皆さんも一緒に殺りませんか？」

「喜んで。」

全生徒が声を重ねて言ひ、「ところで用事とはなんだ。

「雄一、ところで用事とは？」

「根本の女装写真集の撮影と女装したままAクラスに戦争の準備があると伝えて」。

「誰が……」

「しない場合にば、畳と卓袱台だ。」

「雄一、俺は帰つていいか？」

「ああ。秀吉と明久も帰つていいぞ。」

「後は任せるね雄一。」

気持ち悪いものを見たくないでの急いだ。

Aクラス

「優子、一緒に帰らないか。帰るなら急げ！」

「緋色！一緒に帰ろ」

といって抱きついてくる。

「お見舞いにも行くが、いいな？」

「うんでも、なんで急いでいるの？」

「女装した根本が来る。」

この一言で優子が凍り付いた「優子、いくぞー！」

急いでリリーのいる病院に急いだ。

第26話（第26問）敵代表と女装と漁夫の利（後書き）

Bクラス戦決着。Cクラスは、根本の女装写真で片づけました。

第27話（第27回）緋色と優雅ヒツリーナ（前書き）

なんか、放課後の話はながくなりそうですが、少しでも短くしようとおもいます。

第27話（第27問）緋色と優子とリリーナ

第27問

緋色 side

「優子、掘まれ。」

「うん。ところで、今から会う人ってどんな人？」

「リリーナ・ドーリアンと言えば分かるか？」

「あのドーリアン外務次官？」

「ああ。」

「なんで、緋色はそんな人のしりあいなの？」

「元クラスメートであり、俺を変えた奴だからだ。」

「なら、ドーリアン外務次官の事好きなの？」

「ああ、だが、お前に会つ前までだが。」

「ついでにいえば、リリーナの兄はゼクスだ。」

「マーキス先生が? ところで、なんで呼び捨てにしてるの?」

「彼奴とは地球の命運をかけ戦った奴だからだ。彼奴はホワイトフ

アングの指令官だったしな。」

「ふーん」

病院 とある一室

ゼクス side

「リリーナ、いるか?」

「緋色、患者は基本病室にいるでしょ。」

「その声は、緋色と木下か?」

「木下? 誰ですかにいさま?」

「学園の生徒だ。」

「すみません。マーキス先生。団らんの邪魔をしてしまって。」

「緋色、余計なことを教えるな。ところで、木下、お前と緋色の関係は?」

「気にするな、ゼクス、単なる恋人だ。」

「単なるですまない気がするが、お前に恋人とはな。
「お前だつて妻がいるじゃないか。」

第27話（第27問）緋色と優子とリーナ（後書き）

ゼクスと緋色ってこんなに仲が良かつたでしょうか。
感想、アンケートをお待ちしています。

第28話（第28回）ゼクスとノインと夫婦関係

第28話

ゼクス side

「物理のルクレツィア・ノインだ」

「決着を付けるぞ、緋色。」

「ゼロの予測では、お前に未来はない。」

「先生、緋色静かにしてください。」

「すまない。」

「ところで、夕飯食べてないだろ？ 何処か食いにいかないか？」

「ノイン、私だ。回転寿司の予約をとつておいてくれ。そこに、トラスがあつたはずだ。」

「なぜ、回転寿司？」

「一度、行つてみたかつたんだ。」

「奇遇だな。俺もだ。」

「でな、リリーナ帰らせていただく。」

外

「すみません。手伝つてもらつていたら、遅くなつて夕食を食べさせて送るので。緋色？ いますが、はい、わかりました。」

「では、行くか。」

「この車、まるでトールギスだな。」

「ああ、肝臓が潰れかけたことや、オットーを思い出す。」

「それ、冗談ですよね？」

「真実だが、気にするな。緋色、そういうえば、残り三人が転入するらしい。」

「なに？ 本当か？」

「一週間後だがな。」

「まさか、トレーズは教師じゃないよな？」

「あいつが死んだのを見たはずだ？」

第28話（第28回）ゼクスとノインと夫婦関係（後書き）

さすがに、トレーズは無理ですね。優子が一人の会話から取り残されている

第29話（第29畳）ヤクスと緑色の回転寿司（前編）

やつじや、連載三十話。

ふつつかものですが、よろしくお願いします。

第29話（第29回）ゼクスと緋色と回転寿司

第29話

ゼクス side

「緋色と木下、回転寿司という店はなにがでてくるんだ？」

「寿司という食べ物が回ってくるんじゃないかな？」

「寿司とは、なんだ？」

「寿司は、魚などを「」飯の上にのせて食べるものです。」

「おいしいか？」

「ええ。日本文化の代表の一つですから。とにかく、先生は何処からきたんですか？」

「木下、その話を聞くには条件がある。一つは、誰にも話さないと。そして、もう一つは、驚かないことだ。」

「私の本名はミコアルド・ピースクラフト。サンクキングダムの王子だ。」

「完全平和主義のくにですかね？」

「ああ、そのとおりだ。」

「そろそろ、着くようだ。」

「ノイン、すまないな。待たせてしまつて。」

「はい、10分27秒の遅刻です。」

「では、入らうか。すまないが、木下、いろいろ教えてくれないか？」

「分かりました。着いてきてください。」

私は今日、はじめて回転寿司について理解した。

「デュオ達がいるので、軽く宴會でもしましょ。ゼクス。」

「今日は私の奢りだ。」

小宴會が始まった。

第29話（第29畳）ヤクスと緋色の回転寿司（後書き）

次回は宴会の前にキャラ紹介3をしようと思こます。

第三〇話（第三〇話） 五十歩程と六尋（前書き）

連載三十話。 いかがわしくお願いします。

第30話（第30回）兵士と平和と小宴会

第三十問

緋色 side

「なあ、優子？寿司屋つて宴会する場所なのか？」

「私の中じや違うけど。」

「よお、緋色！なんだ彼女をひと一緒に？」

「緋色に彼女だと！」

「緋色に彼女だつてーーー！」

失礼すぎるぞ。

「デュオ、冗談がすぎるぞ。」

「そうだよ、お前を殺すとか、自爆するとかばかり言う人に彼女が居るわけないじゃないか。」

「お前らしくない。」

「だが、残念だねえー、いつもみたいに酒を飲みたかったんだけどね。」

「そんなことしてんんですか？」

「うん、そうだよ。僕はカトル・ラバーバ・ウイナー、よろしく。」

「トロワ・バートンとでも名乗つておひづり。」

「俺の名は張五飛だ。宜しく頼む。」

「木下優子です。宜しくお願ひします。」

「木下、お前も飲め。」

「でも、」

「優子、飲まないなら、口移しでも入れるぞ。」

「分かつた。飲むわよ。」

「では、平和になったことの喜びに乾杯！」

「「「「「「かんぱーい！」」「」「」「」「」」」

宴会が始まった。

第30話（第30回）兵士と母と小唄会（後書き）

いつも、作者です。アンケート、意見、感想をお待ちしております。

第31話（第31回） 魔天使と酒と優子（前書き）

僕と親友と召喚獣もよろしくお願ひします。

第31話（第31問）墮天使と酒と優子

第31問

緋色 side

「木下、飲まないのか？」

「いや、人が多くて、飲みづらいですから。」

「気にするな。おい、カーンズ・ワイン一本追加だ。」

「分かりました。ミリアルド指令。」

「今は、マークスさ。」

「優子、のまないなら……」

「飲むわ。」

一気に飲み干した。待て、これとでも、アルコール強いぞ。

「ゼクス！ 計つたな！」

「何の事だ？」

「貴様が……」

「緋色」

優子が抱きついてくる。

「口移ししてよ それかキスしましょう」

「緋色も隅に置けないねー」

「デュオが言えることじゃないよ。」

「五飛も早く彼女を作った方がいいんじゃないかな？」

「俺には、立派な妻がいた。そいつを裏切る事は出来ない。」

「へー、そうか。ところで、緋色、木下さんはどうするんだ？ また、

お姫様だっこか？」

「たぶん、そうなる。」

バタン 優子が倒れる。

俺はそれを支える。

「ゼクス、優子が酔っているから今回はもう帰らせてもらひや。」

「ああ。眠つてるからって襲うなよ。」

「貴様じゅあるまいし。それじゃ、また明日。
優子を連れて自分の家に帰った。優子はひょんと家に送つて。

第31話（第31回）堕天使と酒と優子（後書き）

次、Aクラス戦の予定。感想もお願いします。

第32話（第32回）堕天使とバカと木下家（前書き）

今回は木下家の朝のお話です。

第32話（第32回）堕天使とバカと木下家

第32話

緋色 side

朝はなにもなく、俺は優子を迎えていた。

木下家

「優子、いるか？」

「優子はまだ寝てるわ。緋色君起こしへきてくれない？」

「分かりました。」

優子の部屋

「優子、入るぞ。」

「とりあえずいっておけ。起きてた時があれだから。」

「優子、起きる。」

「あと五分。」

デュオのモーニングコールをばくぐるか。

「早く起きないと添い寝するぞ。」

「え、緋色？ どうして此処にいるの？」

「彼女の部屋に彼氏がいたらおかしいか？」

「おかしいわよ…」

「おはよう、優子。お前の母親に起こせといわれたからだ。」

「ふーん。おはよう、緋色。」

「俺は下で待つていい。準備が終わったら来い。」

木下家 リビング

「なんだ、明久、お前もいたのか。」

「緋色、なんで此処にいるの？」

「それは、じつちの台詞だ。」

「え？ 僕は秀吉の家に泊まつたからだよ。」

「おい、秀吉の母親に乗せられたか？」

「うん。気づいたらキスしながら寝てたよ。」

「す、いな、おい。」

「「二人ともお待たせ（なのじや）。」」

彼女が来た。

「明久、一緒に逃走しないか？」

「逃走？誰から？」

「クラスメイトからだ。優子、今日も横抱えでいくぞ。」

第32話（第32回）墮天使とバカと木下家（後書き）

予告通りになりませんでしたね。次回、登校中のお話を。

第33話（第33回）墮天使とバカと処刑（前書き）

地獄の鬼ごっこみたいな感じになるとおもいます。

第33話（第33回）墮天使とバカと処刑

第33話

緋色side

「優子、これを使って切り抜ける。」

「うん。ところで、これ何？」

「ビームサーベルを人の大きさに合わせた感じだ。安心しろ、負うのは火傷ぐらいだ。明久、秀吉、お前らの分だ。」

「安心できないんだけど。」

「さあ、いくぞ。俺に着いてくれ。」

「早速か。邪魔だ。」

「ぎいやあああああ

久々に聞くと悪くないな。

「緋色！吉井！てめえらのせいでの木下ハーレム計画が崩れただじゃないか。」

「言いたいことはそれだけか？ターゲットロックオン、破壊する

「ぐわあああああ

「死ねエイイイ！」

「よし、行くぞ、学園は近い。」

「うん。」

文月学園

「西村先生、おはようございます。」

「西村先生、おはようございますのじや。」

「おう、緋色夫妻と、吉井夫妻おはよ。」

「なぜ、貴様がそれを知っている…」

「冗談だつたが、本当だつたのか。」

「先生が冗談を言うなんて珍しい。」

「まあ、恋愛については、何も言わないが、なまけるなよ。」

「分かりました。」「」

「了解なのじや。」

Aクラス前

「じゃあ優子、後でな。」

「うん。」

俺達はFクラスに向かつた。

第33話（第33問）堕天使とバカと処刑（後書き）

次回Aクラス戦の予定です。感想を宜しくお願いします。

第34話（第34回）転校生と戦争と処刑（前書き）

Aクラス戦の予定です。転校生は事前に出しています。

第34話（第34回）転校生と戦争と処刑

第34話

Fクラス

緋色side

「今日、男子の転校生が三名来ます。入ってください。」

「俺の名は吐露話・バートンとでも覚えていてくれ。」

「僕はカトル・ラバー・ウイナーです。宜しく。」

「俺は張五飛だ。宜しく頼む。」

「お前等、来るの早すぎだ！」

「こいつ等も元ガンダムのパイロットだ。」

「なぜそれを！」

「雄一の知り合いにハワードのじいさんがいるんだよ。」

「そうゆう事だが、置いといて、俺達はAクラスに戦争を仕掛ける。勝つために俺が翔子と一緒に打ちをする。」

「コイツはトレーズとでもつながっているのか？」

「五飛、それは違う。彼奴の戦略眼はゼクス並だ。」

「ほう。それは見物だな。」

「クラスに交渉しにいく。ガンダムのパイロットと吉井夫妻は着いてこい。」

「吉井をころせ————！」

「待つのじゃ、明久に何かした奴はコイツで斬らせて頂ぐのじゃ。」

「緋色、女子になんてもの持たせてるんだよ。」

「御身用だ。ちなみに、雄一と学年主席は両想いで婚約者だ。」

「坂本を殺せ————！」

「いぐぞ。明久、秀吉。」

「雄一と言つ奴はあるの今までいいのか？」

「吐露話、心配するな。彼奴と明久は伊達じやない。」

第34話（第34回）転校生と戦争と処刑（後書き）

次回交渉のお話です。
感想を待っています。

第35話（第35回）代表と交渉（前編）

今回は交渉のお話です。

第35話（第35回）代表と交渉

第35話

緋色 side

「先にAクラスに行くぞ。彼奴なら後から来るはずだ。」

「彼女に会いたいから?」

「彼女つて優子さんだよね?えつと...」

「明久とよんとよ。カトル君。」

「カトルでいいよ。僕らは常識がない人間だから、呼び捨てでいいよ。」

「理由になつてないと想ひけど、カトルの言つとおりだよ。会つたことあるの?」

「昨日、ちょっとね。」

「明久、カトル、置いていくぞ。」

「待つてよ。」

Aクラス

「緋色、会いたかった。」

「どんだけ寂しがり屋なんだ、お前は。」

「君が優子の彼氏君?」

「ああ。お前は誰だ?」

「工藤愛子だよ。宜しくね。保険体育の実技が得意だよ。」

「デュオ、保険体育つて何だ?」

「運動とかじやねえの?」

「そうなのか?優子?」

「ええ。というより話を進めましょ。」

「代表同士の一騎打ちを提案する。」

「雄二!いつからいたの?」

「断るわ。なら、5対5にしましょ。いいでしょ、代表?」

「いい。だけど勝った方が言つことを聞くことこれが条件。」

「分かった。その条件をのもう。今から始めていいか？」

「こつちはいいわ。」

「明久、クラスメイト達を呼んでこい。」

第35話（第35回）代表と交渉（後書き）

次回Aクラス戦スタート

第36話（第36回）緋色と黒色の二回戦（前書き）

今日は第一回戦のお話です。

第36話（第36回）緋色と優子との一回戦

第35話

緋色 side

「これよりAクラス対Fクラスの試験召喚戦争を開始します。選手は前に。」

「俺が出る。」

「任せた緋色。」

「任された。」

「Fクラス緋色由比、数学勝負をします。サモン」

「木下優子が受けます。サモン」

緋色由比 678点

木下優子 362点

「ええ！」

「どうした、おかしかったか？」

「悪いな、優子。すまない。」

「ターゲットロック破壊する。」

「え？」

緋色由比 536点

木下優子 1点

「ギブアップする。」

「え？」

「おれはあの子とあの子犬のような人は存在してほしくない。俺のせいでも優子や関係ない人間が不幸になるのはおかしいからだ。これが降参の理由だ。」

「緋色、ありがと。」

「勝者Aクラス」

「すまない、俺のミスで」

「大丈夫だよ、緋色。ほかの人人ががんばってくれるさ。」

第36話（第36回）緋色と優雅と一回戦（後書き）

Aクラス戦第一回戦を次書きます。

第37話（第37回）バカと狂手と捨て駒（前書き）

一回戦スタート

第37話（第37問）バカと左手と捨て駒

第37話

緋色 side

「第二回戦を始めます。選手は前へ。」

「明久、お前の本気をみせてやれ。俺は信じている。「やれやれ、それは僕に本気を出せつていうこと?」

「ああ、もちろんだ。」

「Aクラス久保利光、現代国語勝負をします。サモン」

「Fクラス、吉井明久サモン。実は僕、左利きなんだ。」

Aクラス久保利光 321点

Fクラス吉井明久 62点 「ぐふあああああ！」

「みんな、今から本気で行くぞ！」

「信用してたんじやないの？」

「してたさ。捨て駒として。」

「明久、大丈夫かの？」

「僕の味方は、秀吉だけだよ。」

「俺達は？味方か？」

「もちろん味方さ。いう必要がないじゃないか。」

「明久、わしとは心が通じあえないのかのう？」

「何いつてるんだい秀吉、君とは人生の二人三脚を始めたばかりなんだ。あの5人より大事だからいつたんだよ。」

「嬉しいが、人前では照れるのじや。」

「「「先生、女たらしがいます。」」」

「どこがたらしなのむ。」

「とりあえず同点になるまでがんばろつ。」

「待つて、無視なの？」

「明久、秀吉と保険体育の補修に逝つてこい。」

「おい雄一、それは次の試合が学年1エロい男子対エロい女子だか

第37話（第37問）バカと左手と捨て駒（後書き）

次回三回戦とたぶん四回戦を書きます。
感想をお待ちしております。

第38話（第38回）論理派と実技派と保険体育（前書き）

四回戦もいけたら書きます。

第38話（第38回）論理派と実技派と保険体育

第38話

緋色 side

「これから三回戦を始めます。選手は前へ。」

「…俺に任せろ。」

「…クラス土屋康太保険体育勝負を申し込む。」

「僕も保険体育得意なんだよ。君と違つて実技でね。」

「ふふああああああああ

「ムツツリー——！大丈夫？今医者を呼ぶから。」

「君が緋色君が交代する。保険苦手そつだね。よければ教えるよ、実技でね。」

ぐほああああああああ × 2

「明久にはわしがいるから必要ないのじや。」

「そうよ。緋色には永遠に来ないから。」

「早く始めてください。」

「サモン。」

土屋康太 524点

工藤愛子 0 点

「勝者Fクラス」
「そんなこの僕が」

「工藤さんだよね、あの勉強教えてくれないかい？」

「僕なんかでいいならいいけど、何で…えつと…」

「カトルだよ。君はクラスの中で一番楽しそうにしてるからだよ。」

「なら放課後に校門で待つってね。」

「うん。」

第38話（第38問）論理派と実技派と保険体育（後書き）

次回戦いく予定です。

第39話（第39回） AクラスとFクラスと戦争（前書き）

四回戦スタート

第39話（第39問）AクラスとFクラスと戦争

第39話

緋色 side

「これより四回戦を始めます」

「姫路瑞希行きます。」「佐藤美保が受けます。」

「「サモン」「

佐藤美保 362点

姫路瑞希 452点

「勝者Fクラス。」

「これで同点だ。雄治、任せたよ。」

「Fクラス代表の坂本雄治だ。教科は日本史で小学生レベルの上限ありだ。」

「霧島翔子、受けます。」

「分かりました。問題は用意しています。教室を変えてします。不正行為は無得点扱いです。では、始め！」

テスト中

「結果発表をします。霧島翔子97点。坂本雄治53点。勝者、A

クラス。」

「殺せ。」

「落ち着け、雄治、いくら交際相手がヤンデレだからって。俺はお似合いだと思うが。」

「緋色はいい人。雄治、今からテートに行く。」

「告白すらないのか…ぐふあああ。」

「優子、お前の願いはなんだ？今日から一緒に暮らしましょ。」

「「「緋色を殺れー！」「

「優子、逃げるぞ。だがおやが許可したのか？両親に挨拶すらして

ないが。
」

「うん。今から行きましょう。」

クラスの負けで戦争は終わった。

第39話（第39回）AクラスとFクラスと戦争（後書き）

次の次あたりに吐露話などの自己紹介行いつと思ひます。

第40話（第40畳）緋色と優子と優子の両親（前編め）

オリ話の予定です。清涼祭前にいくつか話を入れようと思います。

第40話（第40回）緋色と優子と優子の両親

第四十話

緋色 side

インター ホンを鳴らして待つ

「待ってください。あら、優子、緋色君。どうしたの？」

「えっとね、お母さん、話があるの。」

「同棲なら普通にいいけど、緋色君の家の人に迷惑がかかるんじや。」

「大丈夫です。一人暮らしですか？」

「その代わりに日曜日には一人でこの家で過ごしなさい。これが条件。お父さんも喜んでいたのよ。腐女子に彼氏が出来て。」

「引っ越し会社に連絡しどくわ。後でいくから。」

「こんな簡単に許可されていいものなのか？」

「さあ？それより行きましょ。夢の同棲生活。子供の名前はどうする？」

「飛びすぎだ。落ち着け。」

「分かつたわ。とりあえず行きましょ。」

緋色の家

「優子は料理できるのか？」

「出来ないわよ。」

「なら、教えてやる。」

「すまない、電話だ。」

「もしもし、緋色ですが。明久？どうした？秀吉が同棲しようって言い出した。すまない、優子のおやがあつさり許可してくれたからみたいだ。」

「お互いがんばろう。幸運を祈る。」「

「八時に公園集合だ。」

「分かったよ。ばいばい。」

第40話（第40回）緋色と優子と優子の両親（後書き）

次回キャラ紹介。
感想待っています。

キャラ紹介 3（前書き）

おきにいり登録が八件あって驚いています。ご期待を裏切らないよう努力したいと思います。

キャラ紹介 3

キャラ紹介

吐露話バートン（トリトン？元ベビーアームズのパイロット）

身長 原作より伸びている

体重 变化なし

髪 色は同じで髪型は原作より少し短め

目 原作と同じ

性格 原作と同じ

ヒロイン候補 小山友香

召喚獣 ヘビーアームズのような奴。

武器 アーミーナイフ（腕についてるナイフ）

腕輪 ガトリング 10秒に30点消費

ミサイル 10発 20点消費

フルオープニングアタック（一斉射撃）一回百点消費

伽兎流・ラバーバ・ウイナー

身長 变化なし

体重 变化なし

髪 变化なし

目 变化なし

性格 他利愛・下手したら暴走（黒カトルみたいに。詳しくは新機動戦記ガンダムWのゼロと呼ばれたGを見れば分かると思います）

召喚獣 サンドロックみたいな奴でヒートショーテルが武器（長いナイフ）

腕輪 召喚 一体につき10点消費

張五飛

外見 身長以外変化なし

性格 正義感が強すぎる

召喚獣 ションロンガンダムみたいで、武器はビームグレイブ
腕輪 ドラゴンハング 一回10点
火炎放射 一回30点

キャラ紹介 3（後書き）

ちなみに張五飛とはチャン・ウーフェイと呼びます。分からぬ單語があつたら感想か何かで送りつけてください。前書きか後書きでお答えします。感想も一緒に送つてくださると嬉しいです。ちなみに質問を前書き等で答えるのは同じ質問が来ないようにするためです。なんか長くなりました。すみません。感想、レビュー、質問、お待ちしております。

第42話（42問）墮天使と優子と甘い生活（前書き）

五十話連載記念に何か書こうと思つてます。

第42話（42問）墮天使と優子と甘い生活

第42話

緋色 side

「優子、明久と秀吉呼ばないか?」

「いいわよ。別に。」

「こちらレッドワン。ブルースリー応答を願う。」

「こちらブルースリー、通信どうぞ、ビルゴを連れてこい。」

「了解。」

ビルゴとは秀吉のことだ。

「ほかに誰か来るの?マックスウェル夫妻とマークス夫妻を呼ぼうと思つ。」

「分かつたよ。三分でついてみせる。」

電話中 マークス夫妻とマックスウェル夫妻へ

数分後

「お邪魔します。」 × 4

「邪魔するぞ。」 × 2

「バカ代表どうして貴様が此処にいる?」

「呼ばれたからです。ところで、何で呼んだの?」

「ゼクス、デュオ、ノイン、持ってきたか?」

「もちろん。」

「明久、今日は飲むぞ。」

「まさか酒?まじで!」

「ああ、伽兎流はデート、五飛と吐露話はなんとなくだったが。」

「今日もめでたいしな。」

「何がだ?」

「二人の同棲が決まったからじゃないのか?」

「否、断じて否!」

「酒飲んでいいの?」

「教師がいいと言つてるから気にするな。飲まなかつたら、秀吉の口移しで飲ませようと思つたが。」

「それ、昨日と台詞が一緒よ。」

「しかし、姉上がよく酒をのめたのが意外じゃつた。」

第42話（42問）墮天使と優子と甘い生活（後書き）

この飲み会が終わったら学校のプールじゃなく川に行つた話にしようと 思います。

第43話（43回）廻り飲み会と盐ご（前編）

アニメみたいにさるか、小説のよつこじよつか待つてます。川の話を終わらせてから。

第43話（43問）酒と飲み会と盐ご

第43話

明久 side

「 「 「 「 「 かんぱーい。」 「 「 「 「 「

「 酒は初めてか？吉井。」

「 もちろん、初めてですよ。」

「 注文を取りたいんだが、特上を二つ、五分で来い。」

「 誰なの緋色？」

「 寿司屋だ。明久が栄養失調だらうから。」

「 「 ほう、面白い奴だな。基本は塩水か？」

「 そのとおりです。しかし、彼女がいるから改めましたけど。」

「 明久の家は苦しいのか？」

「 デュオ、それは違うのじゃ、趣味で食費を割いてまでゲーム等を
買つてたからじゃよ。」

「 そのとおりだ。」

「 「 「 「 さすがバカ、やることが違うな。」 「 「 「

「 待つてよ、僕は学力はもうAクラス並だよ。」

「 優子、飲まないのか？飲まないなら強制的に口に流し込むぞ。」

「 秀吉もだよ。」

「 ちょっと待つて二人とも、さすがにそれは。」

「 お願いね緋色。」

「 賴んだのじゃ明久」

「 「 わかった。」

「 明久、ひとつ忠告する、木下家は酒に弱いらしい。」

「 あきひさー。」

「 やばいマジで酔つてゐる

第43話（43問）酒と飲み会と酔い（後書き）

今回明久視点で書きました。ヒルデが久々に喋つた気がします。
問、感想、お待ちしています。

第44話（44問）酒と飲み会と優手（前書き）

遅れですみません。といひでヨーロクとつものひとつにて書いてしましたが、どうこつ意味なんですか？

第44話（44問）酒と飲み会と優子

第44話

緋色side

「優子、飲んだらどうだ？」

「あたしが暴走したら緋色にまた迷惑がかかるじゃない。」「気にするな、というより、明久は慣れだしてきてるぞ。」

「先生、もうないんですか？」

「お前がたくさん飲んだからないに決まっている。」「明久、お前はそろそろ帰つたほうがいいぞ。」

「何で？」

「優子が暴走するのもあるが、お前の妻が大変な事になつてゐるからな。」

「秀吉、待つて。服を脱ぎだすなんてやめてよ、ほかの人がいるからら。」

「明久、俺達はそこらへんは大丈夫だが、お前がやばいぞ。」「では、お開きにするか。」

「緋色一、一次会しようぜー」

「無理だな。優子の世話があるし、子供の名前は考えなくていいのか？」

「わかつたよ、帰るよ。いこうぜ、ヒルデ。」

「それじゃ、一人とも。また来週!」

「ああ、死ぬなよ。」

「りょーかい。」

マックスウェル・マークス夫妻帰りました。

「優子、大丈夫か？」

「だいじょーぶよー、ひーる。」

「やばいなにされるか分からない、寝るか。」

「俺はシャワーを浴びて先に寝てるぞ。」

「あたしも一緒にいー。」

「分かつた、早く行くぞ。」

「うん」

風呂では何もなかつた。

第44話（44問）酒と飲み会と優子（後書き）

次はプールの代わりに川に行く予定です。もちろん、緋色たちが。

第45話（45問）川とカッフルと処刑の時間（前書き）

投稿できずすみません。この二つの事があると毎回のドーカー承ください。

第45話（45問）川とカップルと処刑の時間

第45話

緋色 side

「こちらレッドワン、ブルースリー起きてるか？通信を願う」

「こちらブルースリー、ビルゴと食事中。用件どうぞ。」

「何処に行かないか？明久？」

「川はどうかな？」

「おもしろい、おれはデュオとかに連絡する、雄一達には任せた。後で連絡を頼む。」

「優子、起きろ。」

「待つて緋色一、後五時間。」

「なら留守番任せた。俺は出かけてくる。多分夜までかかるだろ？」

「待つて緋色、置いていかないで。」

「早くしろ。」

明久の家

「お邪魔します。」

「緋色にお義姉さん。どうぞ。」

「緋色、吉井君、一日酔い？」

「彼奴の妻の姉はお前だ、間違ってかない。」

「おはよう雄二と愉快な仲間達。」

「扱い酷くない？」

「それでは行くか。」

「おい、ゼクス。」

「何だ緋色？」

「カーンズが居酒屋をやつてるらしい。吉井夫妻と共に一杯やるぞ。」

「そうだな。まず、それは後からだ。」

「そうだな。まずは後からだ。」

第45話（45問）川とカッフルと処刑の時間（後書き）

オリ話スタート

第46話（46回）川と水着と生体兵器（前書き）

カーンズが生きているやつです。緋色曰く

第46話（46問）川と水着と生体兵器

第46話

緋色 side

メンバーは俺、優子、明久、秀吉、デュオ、ヒルデ、雄一、霧島、姫路、島田、ムツツリー、ゼクス、ノインだ。

「男子は待つことになるんだよなー。ところでムツツリーは大丈夫なの?」

「問題ない。99812通りのショミレートし、すべて出血した。安心しろ、楽にいかせてやる。」

「最初の人来たみたいだよ。」

「ムツツリー、どうした?」

「あれ、パッド。取つてくる。」

「アキー、キヤッ」

「第一次成長期を弄ぶなど許さない。」

「ゼクス、ノイン、ところで泳がないのか?」

「必要ないからだ。」

「なぜ来た?」

「飲み仲間は多い方がいい。」

「緋色ー。」

「どうした、優子?」

「おかしくないわよね?」

「そのまでいてくれ。」

「どうして?」

「写真に納める。」

「待て緋色、それは犯罪だ。」

「分かつた。」

ちなみに優子は白のビキニである。

「なにがあつた?雄一の眼に。」

「霧島さん……ぶつぶおあ！」

「明久、ムツツリーー、どうした？」

「生体兵器が。」

第46話（46問）川と水着と生体兵器（後書き）

第49話には何かしょりうと思います。物語の中で。理由はガンダムWファンの人は分かると思います。

第47話（47問）川と暴雨と生体兵器（前書き）

今回は明久視点で行くつもりです。

第47話（47問）川と鼻血と生体兵器

第47話

明久 side

「すみません、紐を結ぶのに時間がかかる。」

「ふふおあああ！」

「優子、何が起きている、前が見えないんだが。」

「お前もか緋色、実は俺も何だ。」

「雄二、何が起きている？」

「分からん、だが俺は眼をやられた。」

「ゼクス、何が起きている？」

「説明してくれるさ。」

「緋色、あれは兵器よ。」

「何、ならば破壊する。」

「緋色、落ち着け、たぶん、精神的な奴だろ。」

「みたいだな。優子、離してくれないか？」

「分かつたわ、緋色。」

「状況を確認する。」

「血を噴き倒れるバカ 一人

眼を押さえながら苦しむ坂本夫

周りを警戒しての坂本妻

呆れてるマークス、マックスウェル夫妻

何か嘆いてる人？ 一人？

「優子、明久、ムツツリー＝曰く生体兵器一人。」

「こいつら、相変わらずバカだな。」

「明久よ、わしづか不満かの？」

「ごめん秀吉、待つて、僕の関節で何する気なの？」

「へしもあるだけじゃが？」

「だけじやすまないとと思うよ。でも秀吉の胸が当たって気持ちいい

なー。」

「明久よ、嬉しいのじゃが場所を考えてくれんかの？」

確かに僕は変態みたいだな。

「お前、変態じや無かつたのか?」

第47話（47問）川と鼻血と生体兵器（後書き）

明久が変態みたいですね、ファンの方すみません。次はトレーズが死んだ話数と一緒にですね。個人的にあのシーンは感動しました。知らない方はすみません。

ガンタムのペイロッシュゼクスの戦に出撃（ウイング前半）（前書き）

何日ぶらかの投稿です。今回は原作に触れよつかと思います。

ガンダムのパイロットとゼクスの想に出話（ウイング前半）

番外編

「えー、今日はオペレーショントレオあたりについてお話しよつて思ひます。」

「デュオ、誰に話してる?」

「こりか分からぬけど、読者だよ。原作について知らない人いると思うから。」

「にしても凄かった、ガンダムは。」

「えー、この事件はAC175年にヒイロコイといつ伝説的指導者が暗殺された。」

「アディンロウといつ男にな。」

「詳しく述べ新機動戦記ガンダムWフローランティアドロップの一巻と二巻をご覧ください。」

「カトル、宣伝はやめておけ。」

「分かつたよ緋色。」

「その後に連合が正義の名を元に圧倒的軍事力で制圧していった。そのため5人の科学者達はガンダニユウム合金で作られたガンダムをAC195年に地球へ送り込んだ。」

「そして地上に降り立ったガンダムは各地の軍事施設を破壊していつた。」

「このとき緋色はサリィのおばさんに捕まえられて、輸送され、助けてあげたのに自殺しようとしたんだぜ。」

「確かにあのときの緋色なら自殺してただろつ。」

「ゼクス、お前も聞いとけ、緋色は自殺ミスで骨折、右足の骨折を力だけでなおしやがつたんだ。」

「緋色、骨折治せるんだ、凄いな。」

「次回は、ガンダム達が合流する時からです」

ガンタムのペイロッシュゼクスの戦に出撃（ウイング前半）（後書き）

ひとつあげず五十話連載記念前に原作を少し理解してもらひたためにこのような企画を立てました、五十話記念はまた別です

ガンタムのパイロットゼクスの想い出話（ウイング前半2）（前書き）

原作を振り返りつつ、とこつことで始めましたが、次からは本編に行こうと思います。

はい、トレーズについて出す予定です。生きて欲しい方はどうか想像に生きたまま出せとでも書いて頂ければ結構です。

ガンダムのパイロットとゼクスの想い出話（ウイング前半）

番外編2

「そのあと、トレーズの策で皆」「ユーハドワーズに集まつたよなー」「ああ、あれは意外だつた。」

「ワーカーについては触れないのか？」

「――」「ワーカー？」

「まあそれをおいといて、五飛はトレーズに負け、挫折し、戦意を喪失させた。」

「そうなの、あの五飛が。」

「あのあと女に励まされたお陰で立ち直れたがな。」「それって？」

「サリィだ。」

「サリィのおばさんが？」

「ということは、〇5は女よりもガラスの心を持つてたのか。」

「だからマリー・メイア軍にはいったのか。」

「ゼクス、バートンの乱は後に説明がある、それまで、ネタバレは許さない。」

「その後、トーラス輸送作戦とガンダム掃討戦が始まつた。」

「だが、俺達は猛攻に耐えきれなかつた上に故郷に裏切られ、科学者達が降伏した、核で狙われてたしな。」

「緋色は自爆、吐露和に拾われ、俺はカトル合流、五飛はどうかいつてオペレーションメテオはスペシャルズの勝ちで幕を下ろした。」「オットーとワーカーがいなかつただと。」

「そいつは誰だ？」

「トールギスにのり肺が潰れながらも突撃して散つたよい部下だったよ。」

「肺がつぶれたあ？ 何があつたんだ？」

ガンダムのパイロットとゼクスの思い出話（ウイング前半2）（後書き）

原作を見ていた人は知っているでしょうが、トールギスは重装甲な上にスーパー・バーニアというバックパックにより人の命が無視された反応速度を持つ強い機体で、ゼクスも最初は血を噴いたりしましたが、最終的には反応速度を越えました。トールギスについてはこの辺で。次からは本編です。感想ありがとうございます。

第48話（48回）川と科学兵器と最速王者決定戦。（前編）

最近、睡魔に勝てません。

第三作目を書こうと思います。意見があればお書きください
川編は次で終わる予定です。

第48話（48問）川と科学兵器と最速王者決定戦。

第48話

明久 side

「大丈夫か？ 明久。」

「骨折して痛いんだけど。」

「 「 「 なんだ、それだけか。」 」 」

「みんな、それは酷いよ。」

「いやー、俺達はもと兵士だし、緋色は自分で骨折治せるしな。」

「緋色、すごいね。」

「デュオ、明久の足を持つてくれ。」

「あいよ。」

「いくぞ。」

「うん。」

ごききつ

「ぐわわあああ！」

「この位でいいか。」

「ものすごく痛いけど確かに治つてる。」

その後、数時間泳いだ。

「あの、みなさん。」

「何かな、姫路さん？」

「じつは皆さんにワッフルを作りたかったんですけど、四つ失敗して。」

「第一回」 明久と雄一の声

「最速王者決定戦」 緋色とデュオの声

「イエエエエ」 秀吉と美波とムツツリーーーの合いの手

「ルールの説明だ、明久。」

「りょーかい。単純に往復して帰ってきた人が勝ちだ。」

「いきなりどうしたんだ？」

「明日を迎えるための試練だ。」

第48話（48回）川と科学兵器と最速王者決定戦。（後編）

次回生き残るのは誰か、お楽しみに。とにかく、巡音ルカの紅一葉
とこの曲はいい曲ですね。

第49問 川と最速王者決定戦と最後の勝利者（前編）

私はウイングのピートオを買いに行つたことがありまして、何故か1
2巻がなかつたという悲劇がありました。

第49問 川と最速王者決定戦と最後の勝利者

第49問

緋色 side

一優子、氣をつせろ、またあえることを願う。」

卷之三

「みれば分かる。姫路、自分のワッフルを食つてみろ。」

「あ、
はい!」

バタツ

姫路の頭あたりから白いものが見えるが気のせいだ。

是相
僵一
万如
云二
蠍三
行<者
力一
ニ六の居は

紅色スヌードの女

問題ない 明夕は愛があれば おい 明夕 愛の人の呴泣が 愛

の打撃をお見舞いしてやれ

緑色
それは無理
僕は秀吉がいる
だから
△、△、△、△、△

分かって感謝する

明夕 9 月 6 日

十一

おこにさへくつこひいたな

あ
康太君 ありがとうございます

・ 招徳か無事でよか二た

「ん、エッかねえんだ、ハハハ=ハハた

みんなそぞぞ帰らなし?ムツシリ二達の為にも、

ああ、帰るか。

一
ど
か
寄
っ
て
か
な
い
？
カ
テ
オ
ケ
に
で
も
行
こ
う
よ

負けた奴は罰ゲーム

一乗つた! ジヤあ行くか、女子勢などうする?』

「もちろん行く。女子全員の声

さあ、カラオケに行こう

第49問 川と最速王者決定戦と最後の勝利者（後書き）

マツツリーーと姫路とこゝへ、組み合わせは、自分でも驚きます。次
は打ち上げ？です。

第50問 嘉余と打ち上げ（前書き）

五十話連載記念打ち上げ編

今後も僕と翼とRIO魔獣をよろしくお願いします。

第50問 奪会と打ち上げ

番外編
明久 side

「吉井明久から始めるー。」

「カラオケ対決ー！」

「イエーーー！」

「ルール説明だ、明久。」

「また、酒飲みたいな、という僕の願望は叶わず、前略、坂本雄二へ。」

「なぜ、俺なんだ、明久の頭がいかれだしたので、翔子に続く。」

「歌を歌い、一番うまい人は好きな人とイチャイチャできる、という単純なルール。これでいいかな、雄二ー？」

「おかしい気がするが、いいだろう。」

カラオケで数時間

「帰るか、時間だしな。」

side out

ゼクス side

「邪魔するぞ、カーンズ。」

「これは、ミリアルド指令、久々ですな、緋色、そのおまえの横にいる平らな子娘は？」

「ねー、緋色、この人の関節をすべてとらせて頂くわ。」

「落ち着け、優子、ビームサーベルで切り刻む方にしないと可愛そうだ。」

「やめ、ぐわああああああああ

カーンズ、今回は無料でいいだろ？いやといつたら。

「分かりました、指令、あなたのご意志に従います。」

カーンズが脳量子波を受け取ったか、変わったな、奴も。

数時間飲んだ後帰った。

第50問 奪命と打ち上げ（後書き）

オリジナル話はどうだったのでしょうか？　だいぶ圧縮したのであまりいい出来ではないと思いますが。
次回からは学園祭に行こうと思います。
感想をお待ちしています。

第51問 緯色と景品とオーバンション。（前書き）

明日からは秋ですね。

この話が終わつたら、強化宿の予定です。

第51問 緋色と景品とオリエンテーション。

第51話

緋色 side

「今日、何があるのか？優子。」

「オリエンテーションがあるわよ。」

「オリエンテーション？」

「今回は宝探しみたいだけだ、景品がいいのよ。」

「一体、何なんだ？また、薄っぺらい本か？」

「模擬結婚式よ」

「優子、また学校でたぶん会おう。」

「ちょっと、待ちなさい緋色ー。」

通学路

「おはよー、雄二、明久。」

「おは、緋色か、今日、何があるんだ？」

「そうだよ、緋色、秀吉がトリップしてたんだけど。」

「今日、オリエンテーションがあつて、景品が模擬結婚式なんだ。」

「かなりやばいじゃないか！」

「それは俺も同じだ。」

「秀吉なら、即本番になっちゃうよ。」

「俺達もだ。」

「同盟を組むぞー。」

「彼奴等を殺せー！」

「雄二、ビームサーべルだ、受け取れ。」

「明久、おまえはあるのか？」

「うん、この通り。」

「一気に学園につつこむぞー。」

「了解！」

男子の屍を作りながら、学園に走り込んだ。

第51問 緯色と景品とオリジナルトーション。（後書き）

原作とアニメとオリジナルを混ぜながら進行させよつと思こまか。
感想、お待ちしています。

第52問 異性と女性とのオーランション。 (前書き)

最近、勉強する気がまったく起きません。その分、じゅうりをがんばるひつと思います。

第52問 男子と女子とオリエンテーション。

第52問

緋色 side

ホームルーム中

「えー、組み合わせは男子は男子、女子は女子で組んでくれ、クラスは関係ないからな、以上！しつかり取り組むように。」
鉄人のがなにか話ている、おれに未来があるか、不安だな。

「ちなみに問題児は集めてある。」

「なんだって！」

「良かつたな、緋色、明久、同じだぜ！」

「ああ、未来を切り開く！」

オリエンテーションスタート

「結局は問題解くんだね。」

「当然だろ、明久、雄二、いい考えがある。」

「なんだ、緋色？」

「ウイングゼロを起動させる。」

「それは無理だろ。」

「明久は世界史、緋色はその他、俺は日本史を解く。
明らかに分配がおかしいだろ。」

「俺達は仮にもバカだしな。」

「任務了解、任務を遂行する。」

10分後

「とりあえず、行くぞ。」

体育館

「あつた、目標発見、焼き払うか？」

「せめて他の人にやれ。」

「次に行こうよ。」

「ああ。」

俺達の未来は守られたはずだった。

第52問 男子と女子とオーランション。（後書き）

この後、強化合宿が清涼祭にするか迷っています。いじ要望等もお待ちしております。

第53問 異子と女子とチケット争奪戦（前書き）

最近、更新のペースがおそくてすみません。

第53問 男子と女子とチケット争奪戦

第53話

「こいつは、根本、清水、久保でいいよな？緋色。」

「答えるまでもない。」

「久保君って好きな人いるの？」

「ああ。」

「待ちなさい、緋色、吉井君、坂本君。」

「俺達は行くべき場所があるんだ！邪魔はさせない。」

「人間は帰る場所さえあればいい。」

「吐露話、邪魔をするな。」

「悪いが、香戸留の為だ。全てを消滅させる。」

「正義は俺が決める！」

「五飛か！」

「一度、お前と戦つてみたかった。」

「明久、雄一、逝け、逝つて未来を掴んでこい！」

「雄一！」

「ぐわあああああ。明久、俺達の未来、貴様に託す！」

「僕は生き残る！」

「待つのじや！明久。」

「ごめん、秀吉。僕はこいつら小細工無しで秀吉と結婚したいんだ

！」

「分かつたのじゃ、明久、助太刀いたす。」

「五飛、トレーズとブントはもういない、お前は奴等を倒したんだ

！」

「違う！俺と奴等は決着をつけていない。」

「だから、かつての仲間を…」

「キーンコーンカー！ーン。」

「オリエンテーション終了！」

第53問 男子と女子とチケット争奪戦。（後書き）

終わらせ方が無茶苦茶ですみません。次からは清涼祭です。

第54問 僕と野球と学園祭。（前書き）

INFINITE・W様、いじ意見ありがとうございます。今から
は清涼祭編です。

台詞が多いので、台詞を減らしてみようと思います。

第54問 僕と野球と学園祭。

第54話
明久 side

明日からは清涼祭。いろんなクラスがお化け屋敷とか、喫茶店などの準備をしている。ちなみに僕たちは…

グラウンドで野球をしていた。

「来い、吉井。」

「勝負だ、須川君。」（雄二、サインは？）

（須川の股間にジャイロボールのストレート。）

（それをしていいの？とりあえず、信じよ。）

ビュン！（明久の投げた音）

ドスッ、グシャ！（須川君の大好きな物に当たった音）

ドサツ（須川君が倒れる音）

チーン、あれ須川君？何で起きないの？

「吉井ー！」

「あの声はー！」

「何をやつとるかー！」

鉄人だ。（雄二、じうする？）

（鉄人の渠にストレート、もしくは、後頭部にスライダー。）

（違うよ、雄二、助かる方法だよ。）

「吉井ー、にがさんぞーー！」

side out

緋色 side

「あいつら、馬鹿だな。」

「しかたないじゃねえか。馬鹿なんだしな。そろそろ帰つてくるぜ。」

ガラツ（扉が開く音）

ドサツ（鉄人が明久達をおいていく音）

「まだ、出し物が決まってないのは、うちだけだ。早く決めるよ」

第54問 僕と野球と学園祭。（後書き）

少しは台詞が減らせた気がします。
感想、ご意見、ご要望、質問等、お待ちしております。

第55問 明久とFクラスと出し物決め。（前書き）

最近、原作を読んでいないため、おかしい場所があるかもしません。

第55問 明久とFクラスと出し物決め。

第55話

明久 side

「俺達は、野球をするぞ。明久、秀吉、進めてくれ。」

半年前ぐらいまで戦争を緋色達はやっていたから、学園祭について知らないのはわかる。5人以外は驚いていた。当然、僕も。

「雄一、おかしいよ！」

「おかしくないよな、5人とも？」

知らない人に聞いたつて無駄だ、バカゴリラ！

「「「「さあ？」」」

やつぱり、ダメだろ、バカゴリラ。

「明久、ちょいと面かせやあああああ。」

「望むところだ。ちょっと待つて、準備するから。」

バカゴリラめ、気づいてないのか、こちらには霧島さんという強力な神がいる。

「もしもし、霧島さん？雄一が秀吉の胸をさわってるよ。」

「今行く。」

「てめえ、卑怯だ」

坂本夫妻退場

「というわけで提案がある人？」

「…写真館」

「いっぽはやばい。個人的には嬉しいが、秀吉が怖いし、秀吉のああいう姿は独占したいんだ。」

「秀吉、こんなバカみたいな意見でも書いといてよ。」

「りょ、了解じゃ。」

やはり、秀吉もいやなんだろ？な。

第55問 明久とFクラスと出し物決め。（後書き）

前とくらべて文字はしつかり減らしているのでこんな感じを維持したいです。

引き続き、感想、ご意見、ご要望等お待ちしております。

第56話 清涼祭とバカと出し物決め2（前書き）

秋なのにとても暑い。
たまに投稿し忘れるかもをれません。

第56話 清涼祭とバカと出し物決め2

第56話
明久 side

「他には？」

「とりあえず、写真館があるが危ない。誰か出してくれ。」

「はい。」

「横溝君」

「俺はメイド喫茶と行きたいが、ウェディング喫茶を提案する。」

「秀吉、書いててね。」

「うむ。」

人生の墓場とも言われてる結婚、その衣装を見るだけで悲しくなる人もいるだろう。

「他には？」

「俺は、中華喫茶を提案する。食という…（以下略）」「長い。どのくらいかと言つと、30分続いた。

「とりあえず、この辺で確認を。」

僕は驚いた。何故かと云ふと（下を参照）

写真館

秘密のぞき穴

ウェディング喫茶

人生の墓場

中華喫茶

ヨーロピアン

おかしいなー、なぜだろ、バカが書いたみたいだ。

「秀吉、この名前はちょっと。」

「ほう、意外じゃのう、明久は気がつかないと思つてたのじゃが。「遠回しにバカっていうてるでしょ。」

彼女にバカ扱いを受ける人つて僕ぐらいだろう。

第56話 清涼祭とバカと出し物決め2（後書き）

緋色達は、出し物決めが終わるまで、出番がありません。
申し訳ございません。

第57話 清涼祭とバカと出し物決め③（前書き）

PV40000達成。今後とも宜しくお願いします。

第57話 清涼祭とバカと出し物決め③

第57話

ゼクス side

今、西村先生と一緒にFクラスに来ている。そして、出し物候補が、酷すぎた。

「おまえ等、決まったか？」

「はい。」ほぼ全員の声

「緋色、デュオ、吐露話、化取留、五飛以外は、最低補修は三倍増やさないといけないな。」「

side out

明久 side

補修三倍？一人を倒して、補修を…「西村先生、召喚許可を。」

「どうする気だ、ゼクス？」

「世界史教師ゼクス・マーキスが吉井明久に模擬戦を申し込む。」

「ちょうどいい、貴方を倒し、鉄人を倒す！」

「すばらしい志だ。だが、私の敵ではないな。」

教師 ゼクスマーキス

世界史 1089点

生徒 吉井明久

世界史 163点

「なにいいいい！」

「だが、そつちは慣れてないはず。」「

「甘い。」

ゼクスマーキス

1089点

吉井明久

0点

「ゼクス、任せた。私はこのバカに補修させにいく。」「

「という訳だ。おまえ等は設備を売り上げを使って上げようとは思わないのか？」

確かにその手があった。

でも、今から僕は鉄拳フルコースを食らうからしばらく関係ない。

第57話 清涼祭とバカと出し物決め3（後書き）

次回、出し物決め、終了予定。テストの成績が悪いため、下手したら、一ヶ月ぐらい投稿できないかもしれません。

第58話 清涼祭と転校と出しお決め（前書き）

テストがとても悪かったです。没収されるかもしれませんがあと少し
くお願いします。

第58話 清涼祭と転校と出し物決め

第58話

緋色 side

「その手があつた！」

気づかないおまえ達はすゞいな。

「多数決をとるぞ。」

雄二が起きている。寝てたはずだが。

「写真館がいい奴。次がいい奴。最後のがいい奴。」

早いな。

「誰も挙げなかつたから中華喫茶にする。協力しろよ。しない奴は使い捨て人型装甲板になる」

さりげなく酷いことをいつな。

「雄二。」

「さらば。」

すゞい早いな。是楠のトルギス並か。

「生き延びたー！」

「あの吉井君、木下さん、緋色君、少しよろしいでしょうか？」

「別に。」

「別にかまわぬが。」

「単刀直入にいうと美波ちゃんこ転校するかもしけないんですね。」

side out

明久 side

美波がいなくなると…

明久の回想

・美波がいなくなると暴力が減る＝平和

・清涼剤？が一つ減る＝暑苦しい＝姫路さんを巡つて乱闘が起きる

＝秀吉が巻き込まれる＝迷惑だ

回想終了

「それは大変だ！」

「でも何故俺達に聞く？親の事情ならしかたないだろ。」

「確かにそうだ。一体何が？」

「それは…」

第58話 清涼祭と転校と出し物決め（後書き）

微妙な所で終わらせてすみません。次回は雄一の捕獲の所です。
想、要望等お待ちしております。

第59話 清涼祭と転校と捕獲大作戦（前書き）

ペースが結構遅いので、大会までだいぶかかると思います。

第59話 清涼祭と転校と捕獲大作戦

明久 side

「実は、美波ちゃんの転校の理由は…」

「この教室の環境とかが問題なんだろ?」

「デュオ君! 聞いてたんですか?」

「俺も混ぜろよ。」

「今度は、ミスるなよ。」

「ミス? 何があつたんだ?」

ブルルルルル!

僕の携帯が鳴っている、相手は…

雄二だ! よつしゃきた!

「もしもし、明久、鞄を頼む、それか俺をたすけくれ。やめろ、翔子、ベルトを…」

たすけ?

「「ぶわっあつはっは!」」

「聞いたか、緋色、明久、たすけだつてよ。」

今の録音したいなー。傑作だよ。

「雄二は最後にベルトがといつたが何があつたんだ?」

「緋色、デュオ、雄二を捕まえにいこう。」

「雄二の苦しむ姿を近くでみたいから。」

「だが、場所はわかるのか?」

そのくらい簡単さ。雄二は男子がいないところに隠れるに決まっている。

女子更衣室

「雄二、奇遇だね。」

「何があつたら、此処で会うんだ?」

ガチャッ

ドアの音がした。その先は…

第59話 清涼祭と転校と捕獲大作戦（後書き）

睡魔に負けなければ、もう1話いこうと思ひます。

第60話 清涼祭と覗きと逃走大作戦（前書き）

僕と親友と召喚獣にユニークアクセスが抜かれてしまいました。両方自分の作品ですけどね。

第60話 清涼祭と覗きと逃走大作戦

緋色 side

「緋色？」

優子？

「何しに此処にきたの？」

ここはごまかすしか…

「お前の体操服姿を見に来たんだ。」

しまった。やばい、嘘ついたのがばれるより…

「緋色つたら、家でならどんな格好でもしてあげるのに。」

やめてくれ、明久達の前で

「先生、覗きです。吉井君と坂本君が。」

やばいな、俺もでるか。

「優子、また放課後に。」

「うん、後で」

デュオはばれずに済んだみたいだ。

教室

10分後

二人が帰ってきた。

「やはりその理由は…」

「三つあるな。」

吐露和が乱入していく。

「吐露和、協力してくれるのか？」

「クラスメイト達は俺達で済ませる。」

召喚大会だったか？あれで優勝すればいいしな。

「一つ目は中華喫茶を成功させればいい。」

「もう一つは、学園長に直訴すればいいぞ。」

「緋色、明久、任せた。」

俺は優子と帰るか。

「

第60話 清涼祭と覗きと逃走大作戦（後書き）

アンケートをとらうと思います。

一つ目は五飛の恋人

誰かいるなら、相手の名前をいらないならなしと答えて下さい。

二つ目は召喚大会優勝者です。

協力してくれるとありがたいです。期間は13日までにしたいと思います。

第61話 清涼祭と設備と妖怪ババア（前書き）

最近、退屈で寝てばかりです。勉強はやる気がしないので。

第61話 清涼祭と設備と妖怪ババア

明久 side

僕は雄二と学園長室前にいる。理由は前回話してた気がする。

ガチャ（僕がドアを開ける音）

失礼しまーす（僕と雄二の声）

ニヤ（ババアと鉄人がニヤケル効果音）

ザザツ（僕らが引き下がる音）

ガシツ（鉄人に捕獲された音）

チツ（教頭の舌打ち音）

「貴方の引き金ですか？学園長。西村先生も呼んで。」

「とつと失せな、髪の分け方が犯罪物なやつに嫌みを言われる筋合
いはないからさ。」

「この人、やっぱ変態だ。9・5巻に詳細は…」

「明久、宣伝はやめろ。」

なぜ、心の声が。

「用件はなんだい？クソジヤリ。まず、名を名乗つてからにしな。」

「俺は坂本雄二、こいつが地球圏のバカ代表です。」

「原作より扱い酷くない？」

「メタ発言はやめな、クソガキ、あんたには礼儀がないのかい？用
件をいいな」

「教室の環境を改…」

「却下だ」

「今の教室は戦争があつた後、またはあんたの脳味噌なみに酷く、
あんたやガンダムのパイロットじやなきや生きていけねえ。
「こちらの条件にのつたらかんがえてやるさね。」

「条件は？」

「大会の優勝さね。チケットの回収をしてほしくてね。」

「チケットー？」

僕と雄一の目が胡麻になつた。

第61話 清涼祭と設備と妖怪ババア（後書き）

せりふが次も多くなると思います。理解ください。

第62話 清涼祭と設備と妖怪ババア2（前書き）

昨日は投稿できずすみません。悪いのですが、小説は18日まで休ませていただきます。理由は18日が体育大会だからです。ご理解をおねがいします。

第62話 清涼祭と設備と妖怪ババア2

明久 side

「で、なぜ、チケットなんですか？」

「あんたはは如月ハイランドが副賞に出るのは知ってるかい？」

ふーん、知らないや。

「知らん。」

「そこで、良からぬ噂を聞いてね、」

噂？何だろ？

「あちらは、幸せの為のジンクスを作ろうとしていてわ……」

別に良いじゃないか。

「強制的に、結婚までプロデュースしようとしてるのや。」

「なんだつて――！」

やばい、秀吉達が絶対参加していく。カトルやムッシリーも。

「雄一！」「明久！」

「絶対に勝つぞ！」

「引き受けてくれるのかい？」

「もちろん。」

僕たちは未来が掛かっているから、断る理由がない。

「明久は帰つていいぞ。」

なぜ、僕を捨てるんだろう？

「お前は外で待機しどけ。」

この後、秀吉と一緒に帰った。

side out

優子 side

「ねえ、緋色、お願ひがあるんだけど。」

「何だ？」

かれはあたしの彼氏の緋色、無愛想だけど優しいから好きなんだだけ

ど、それは置いといて、

「一緒に試験召喚大会にい

「今日の夕飯は何が良い?」

話逸らしてきた。

「なんで嫌がるの?」

あたしつて嫌われてるのかな?

「おいでユオ。」

「なんだ緋色?」

第62話 清涼祭と設備と妖怪ババア2（後書き）

今回は優子の扱いが酷くすみません。かなうず、この罪は償いますから。

第一回バカテスト（前書き）

タイトルを変更しました。理由は、話とタイトルが違う気がしたからです。そして、明日、体育大会の予定でしたが、延期になりました。すみませんが、21日までまってください。明日ぐらいは投稿しますので。

第一回バカテスト

第一問

十一月二十四日に起きた戦争は何といつか、答えなさい。

緋色、デュオの解答

EVE
WARS

ゼクスのコメント

貴様等には簡単すぎたか。

吉井明久の解答

サンタクロース争奪戦

ゼクスのコメント

少しお話があるから補修室に来なさい。

吉井明久の回答

いやです。

ゼクスの返答

なら、潰しにいく

第二問

光は波であつて（ ）である。（ ）にあてはまる言葉をいれなさい。

緋色、デュオ、吐露話、カトル、五飛の答え

粒子

ノインのコメント

簡単すぎるな。間違える奴はいないだろ？。

土屋康太の答え

寄せてあげるのである

ノインのコメント

いつたい何が言いたい？

吉井明久の答え

ビームサーベル

ノインの『メント

戦争はとうとう終わっている。そのよつた物はござる。

第一回バカテスト（後書き）

バカテスト書いてみましたが、どうだったでしょうか？
テストが悪かつたので更新が体育大会後は遅れるかもしれません。
ちなみに44番でした。111人中です。テスト勉強はちゃんとす
るべきと思いました。

第63話 バカと大会と学園祭（前書き）

更新できずすみませんでした。明日も中止なんですが、連載を再会
させようと思っています。

第63話 バカと大会と学園祭

緋色 side

結果的に優子と大会に出ることになった。そして今、優子とかと登校中。

「緋色も大会でるの？」

「こいつもたぶんやられただろう。」

「ああ。お前は秀吉とか？」

「とりあえず情報収集だ。」

「いや、雄一とだよ。」

「いわゆる同姓愛者というやつか。優子の好きな。」

「失礼な。君は転校の話を忘れたのか？」

「ああ、そういうえばそういうことが…」

「絶対忘れてたよね。」

「学校に着いてしまった。優子と別れ、教室に向かう。」

「なかなかだな。」

教室の装飾が。

「雄一はやる気をだしたらす”いからね。」

「それは賛同するな。」

「とりあえず、優勝は俺達がする。」

挑発を：

「僕達こ優勝しないと…」

「学園が潰れるかもしけないのは知つている。」

「明久がとても驚いてる。キモイぐらいに。」

「代表さんよー、接客はどうすんだ？」

「こいつは意外にもこういう才能がある。」

「お前のあの、励ます時の感じじゃないのか？」

「あれはすごいしな。」

「確かにデュオはホストクラブの店員並の接客技術があるからな。」

五飛の一言に俺、カトル、吐露話が頷く。
もう少しで一回戦だな。優子を迎えにでもいくか。

第63話 バカと大会と学園祭（後書き）

デュオの接客については、ボイスカセット新機動戦記ガンダムWを聞いてみればわかります。

緋「宣伝はしないほうがいいと思うが。」

そのとおりです。次回一回戦スタート

第63話 大会と学園祭と一回戦（前書き）

明日が体育大会の為、短めに行こうと思います。

第63話 大会と学園祭と一回戦

緋色 side

一回戦の相手はモブキャラになつていて、教科は国語だ。

緋色 421点

優子 368点

V S

3—I F組1 20点
3—I F組2 30点

こいつら社会で生きていくのだろうか?

「優子、任せた。」

優子が驚いてる。おかしいことを言つたのだろうか?

「別に良いけど、何で?」

「単なる準備運動だ。」

優子は納得しているが敵が理解していない。

ブスツ バタツ。

一体倒れた。

「 の仇ー!」

名前すらないとは意外だな。

ザツ、ブスツ、バン、ヒュー、ドガン。

もう一體が真ん中に大きな穴を開けて、散つた。

「勝者、緋色、木下ペア。」

観客が可愛そうな目で負けた二人を見ている。

「優子、後で、喫茶店に来るからな。」

「待ってるわ、緋色。」

優子と別れ、教室に戻つた。

第64話 大会と学園祭と変態「ハ」（前書き）

体育大会終了しました。また、前の時みたいに更新出来ると思います。

第64話 大会と学園祭と変態「ソノ」

緋色 side

教室に戻つたら、迷惑なキヤラが一つあつた。

「汚えなー、こんなところでぎやあああああー！」

デュオが坊主を殴つた。サイズでだが。

もう片方は確か…

「秀吉、あのソフトモヒカンにお主なんか大つ嫌いじやー馬に蹴られて、刀に刺されて、地獄より下に墜ちるのじゃと言つてこい。」

「承知。」

秀吉がソフトモヒカン（以下ソフモヒ）にあの台詞を吐いてきた。そしたら、ソフモヒの頭から白い奴が出てきて、のの書取を始めた。そしてデュオと雄二がビデオカメラで録画している。ハゲの方が動き出しました。

「緋色、殺つていいでぞ。」

客がいるのに、それは無理だ。

「そこの天然ハゲの方。この人は緋色由比だぞ。」

ざわざわと周りが騒ぎだす。

「デュオ、やつていいでぞ。」

彼奴ヤルキあるぞ。

「お客さん、どいたほうがいいですよ。」

デュオが忠告する。そしてビームサイズを構える

「おらおらああ、死神様のお通りだあー！」

といつてハゲのベルトが切れる。そしてそのパンツ丸だしハゲを雄二とムツツリー二が撮影している。

「おまえ等、覚えとけよ。」

あくにんの台詞を言いつつ、もう一人を連れて運ぶ。おもいつきり悪党みたいだな。

第65話 大会と学園祭と | 回戦（前書き）

PV60000、ニーク6000達成。こんな駄文を読んでください
ありがとうございます。これからも宜しくお願いします。

第65話 大会と学園祭とい回戦

緋色 side

俺達はまたモブキャラだったから瞬殺してきた。なので雄一達の二回戦を見に来た。

「おい、そこの根本の彼女、これを見たくないか？」

あれば…、根本の女装写真集。あのクラス全員が悲鳴を挙げたあいつの写真集だ。優子が見る気ままなんだな。

「緋色、あれって何なの？」

やはりそう来たか。

「根本の女装写真集だ。」

優子がフラフラしだした。名前挙げただけで氣絶されるなんて凄い奴だな。ある意味だが。

ドサツ

優子が倒れた。保健室に運ぶか。

side out

優子 side

あれ、あたしは…？、確かに会場にいたはずじゃ…。緋色が心配そうにこちらを見ていた。

「起きたか、優子。」

やつぱり倒れたんだ。

「ああ、今は一日の朝だから、半日寝ていたな。」

半日も？まさか…

「緋色、ずっと居てくれたの？」

「やはり家の方が落ち着いたか？」

正直そうだけど緋色は大丈夫だろうか？

「緋色、寝てないんでしょう？あたしが膝枕してあげるから寝なさい。」

「一日程度、問題ない。」

「一日程度、問題ない。」

そつか、兵士だもんね。

「なら、お前と家で過ごすか。

それってサボりだよね？

「大丈夫だ、許可はある。

」
え？

私は驚いた。

第65話 大会と学園祭とい回戦（後書き）

召喚大会を楽しみにしてた方はすみません。これで一応、清涼祭は終わりです。この後はオリ話です。

第66話 学園祭とサボテンバー（前書き）

いきなりオリ話に入りますが、打ち上げには参加する予定です。

第66話 学園祭とサボリとテート

優子 side

「誰の許可を取つたの？」

学校行事をサボる許可なんて普通貰えない。たとえ、人が倒れても。

「学園長…じゃなくて妖怪大王クソババアだ。」

クラスメートの影響かしら？

「ちなみにどうやって？」

緋色は説得とか得意そうじゃないからね。

「学園長にバスター・ライフルを構えて、ビームサーベルを心臓付近に構えただけだ。」

下手すると殺人だわよね？

「ところで、どうするの？」

気になる疑問を一つ。

「学校にハッキングするのもいいが、どこか行くか？」

これってデートだわよね？

「如月グランドパークはどう？」

ウエディング体験があるから。

「リリーナの見舞いにでも行くか。」

えっ！ デートじゃないの？

「たまには顔を出さないとな。」

どっちが大事なんだろう？

「大丈夫だ、ずっととはいさ。そのあと如月グランドパーク以外のところに行くから。」

なんだ、良かつた。

「早く行こう、緋色。」

「久しぶりにリリーナにあいたいみたいだな。」

こういう時だけ、緋色は鈍いんだから。

「軽く救急車あたりを取つてくる。」

「待ちなさい、緋色。バスで行きましょ。
ジャックなんかしたら大変なことになるから。
あたし達はバスで病院に向かつた

第66話 学園祭とサボリートート（後書き）

リリーナ久々の登場予定。

最近、ガンダム無双3にはまつていて、ヒイロが手に入らなくて、ヒイロの育成ができない状態です。一番はミコアルドとエピオンがいいんですけど。

感想等お待ちしています。

第67話 学園祭とサボリとコリーナ（前書き）

最近、自分の奴を読みますが、とても酷かつたと思います。今もですが。今は前よりは良くなつてると感づつので。

第67話 学園祭とサボリとリリーナ

病院

リリーナ side

最近、緋色が見舞いに来てくれない。どうしたんだろうか?まさか
…彼女が。

居るわけがない。

「入るぞ、リリーナ。」

緋色だわ。理由を聞いてみましょ。

「緋色、どうして、見舞いに…、あら、そこの中は?
緋色の後ろに女子がいた。まさか、拉致した?いや、なら重要人な
のかしら?」

「優子か?ああ、前も一回会つただろう?
確かに会いましたけど…」

「あたしは緋色の婚約者の木下優子です。」

自分の耳を疑つてしまつ。デュオ君達なら笑いこけそうだ。

「リリーナ、どうかしたか?」

なんでここだけ鈍いんでしょうか?

「ところで、今日は学校の行事じゃなくて?」

とりあえず話題を変える。

「優子が俺のせいで倒れたからな、休んだ。
よほど仲がいいみたい。」

「優子さんでしたつけ?緋色はちゃんと生活出来てますか?
ガブリエルの時は一応大丈夫でしたけど。」

「一応問題ありません。」

一応?理由も聞こう。

「優子、俺は問題起こしたりしてないが。
学園長に武器を使って脅迫したのは?」

「あらあら、緋色つたら変わりません事。
」

「悪い、リリーナ、そろそろ帰らせて貰う。」

「ええ、また今度」

こうして病室を後にした

第68話 学園祭とサボりと召喚大会（前書き）

最近、雨、多いですよねー。
個人的に迷惑です。

第68話 学園祭とサボりと召喚大会

緋色 side

「緋色、何処に行くの？」

「学校にでも行くか、密として。」

行くところないからな。

「お前も思いでが欲しいだろ?」

「そうね、行きましょ緋色。」

俺達は学校に向かった。

中華喫茶ヨーロピアンという矛盾した名前の店に来た。
「いらっしゃ…姉上に緋色、何をしてるのじや?」

秀吉が聞いてくる。

「ちゃんと許可はあるわ。」

「気にするな、単なる客だ。お前の劇はその程度か、トレーズの舞台の方が面白かったな。」

近くから明久が殴り掛かろうとする。だが…

「お前はほんとに単純だな。」

避けるかどうかするに決まってる。

「早く、秀吉に謝れ!」

「明久、何を言つてゐるのじや?」

確かに。

「緋色が秀吉の事を…」

「おう、緋色。休みじゃないのか?」

皆の疑問を雄一が質問してくる。

「暇だつたしな。そういうえば昨日のメールの内容について詳しく聞かせてくれ。」

優子が?を浮かべてる

「明久が女装…失礼、アキちゃん?だったか?何があつた?」

「吉井君、目覚めたの？」

確かに自分の妹の夫が女装趣味だつたら……。

「大会はどうだ？」

「優勝したよ。」

「優勝おめでとう。」

優子と共に祝つた。

第68話 学園祭とサボりと召喚大会（後書き）

とうあえず、後夜祭をして二巻に移らつと思ひます。

第68話 学園祭と後夜祭とハレンジジコース（前書き）

来月にフローズンティアドロップ4巻と敗者達の栄光一巻が発売予定。

緋色「おい、宣伝はやめておけと言つたはずだ。」

気にせず後夜祭スタートです。

第68話 学園祭と後夜祭とホレンジジコース

緋色 side

今、俺は後夜祭に来ている。

理由は優子も自分のクラスの後夜祭に行つていて暇だからな。

「それでは、かんぱーい！」

デュオがなんかはしゃいでる。

「デュオ、シャンパンは飲んじゃダメだよ。」

カトルもいた。

「カトル、今日ぐらいいいじゃないか。」

吐露和も珍しく反対しない。

「というより貴様等はいつも飲んでるだらう？」

五飛が暴露した。お前にそんなこと言われる筋合いはないがな。

「なにこれ？ああ、お酒か。」

明久はもう抵抗がないみたいだ。

「明久、なんか慣れてるみたいだな。」

雄一が聞く。

「そりや、先生や緋色達と飲んでるからね。」

決して一般の学生が誇れる物ではない。

フルフルフル

携帯が鳴っている。俺のだが。相手は「藤愛子？」

彼奴とは関わりが無かつた気が。

「もしもし緋色君？ちょっと来てくれない？」

優子に何かあつたみたいだ。

「なにがあつた？」

酔っぱらつたぐらいだろ。

「緋色がいないと泣き出しちゃ。連れて帰つてくれない？親が気にすると思うから。」

優子の親は気にしないと思つが。

「カトルも連れてくるから待つてる。」

「うん。」

なんか喜んでたな。

この後、カトルをつれて優子達の所に向かった

第68話 学園祭と後夜祭とオレンジジュース（後書き）

案外1話じゃ終わらない物なんですね。この後は強化合宿の前に如月ハイランドを書く予定です。

第69話 学園祭と後夜祭ヒューランジージュース2（前書き）

久々の更新です。今までよりも悪化してるかもしれません。

第69話 学園祭と後夜祭とオレンジジュース2

緋色 side

優子を迎えたのはいいのだが…

近くに酒が置いてある。たぶん酔つたんだろう。

「ひーろ、会いたかつたあ」

いつもと違うな。異常なままに。

「優子、おまえが寝る前に帰るぞ。風邪など引いてほしくないからな。」

「…………」

もう寝たのか。しかたない。連れて帰るか。カトル達はイチャついてるからじやまをしないようにするか。

帰り道

優子は意外にも重かつた。久々だしな。

「ひーろー、足と首、どっちの関節がいい?」

乙女心とでもいうのか?トロワは女は傷づきやすいとかいつてたし
な。

「落ち着け、優子。起きたなら、降ろしていいか?」

あまり重い物とか持たないしな。対MS砲ぐらいしか。

「ひーろの背中が暖かいからやだ。」

学校生活と私生活の差が激しいな。

明久にチケットの処分について聞くか。

「おい、明久?如月ハイランドのチケットはどうした?」

「賞品は僕が、オリエンテーションは雄二が…」

やばい、これは、

「俺達は、チェックメイトだ。」

絶対雄二は優子達に渡してる。

「明久、それは霧島に渡せ。道連れを増やすぞ。」

「緋色も僕らみたいに染まつてき…」

ブチッ

「優子、寝るか？」

こうして清涼祭は終わった

第69話 学園祭と後夜祭とオレンジジュース2（後書き）

次回からハイランドに行きます。残りの一枚は…。
いつたい誰の手に。
感想等を送つてくれると嬉しいです。

第70話 僕らと彼女と如月グランドパーク（前書き）

清涼祭の最後が雑ですみませんでした。

第70話 僕らと彼女と如月グランドパーク

緋色 side

「もしもし？」

誰からだ？迷惑な。

「キサマヲチマツリにアゲテミナテショケイシテヤル！
朝から物騒だ。

ブチッ。切れたみたいだ。

フルブルブル。今度は誰だ？

「なんだ明久か。どうした？」

今日のことだろ。きっと。

「デュオ達は来ないの？」

「たぶん、スタッフになつてゐるはずだ。切るが。」「早く済ませるか。

「緋色、如月ぐら」分かつた。行くぞ。「いいの？」

未来は変わらないしな。

「明久や雄一達も来るらしいが。」「

なら早く行きましょ

こんな優子、久々だな。

俺達は如月グランドパークに向かつた。

side out

明久 side

「明久、きょ」「一緒に行こう。」「ありがとなのじや

雄一達がうらぎりませんよう。」「

そういうえば道が分からない。まあ、いつか、緋色達も来るみたいだ
しね。

「緋色、一緒に行かない？」

「道が…」

「バカだな。お前の家の前で待つてゐるが。」「

早っ！まさか分かつてたなんて。秀吉とは初めてのトートな気がする。たつのしみだな～

第70話 僕らと彼女と如月グランドパーク（後書き）

次回は雄一達の朝ともう一組のカップルについて（の予定。）

第71話 僕らと彼女と如月グランドパーク2

雄二 side

カーテンから差し込む光やらで俺は目覚めた。

「…雄二、おはよう、今日はいい天気。」

ベットの脇に翔子がいる。

今日は休日の為、制服ではないようだ。

「改めて、翔子、おはよう。」

「…うん、おはよう雄二。」

なぜ、翔子がいるんだ？約束は…してない。なら。

俺は携帯をと…ろうとしたが翔子に捕られる。理由でも聞くか。

「今日はどうしたんだ？」

いつもなら襲つてくるはずだ。

「…約束、如月グランドパーク。」

なぜ、翔子がそれを？

「優しい人達がくれた。」

ちつ、あいつら気づきやがったか。木下姉か、秀吉、大島に渡した
のが読まれてたか。とりあえず、一人に死刑宣告でも送つとか。

「…雄二、行こう？」

明久達も道連れだしな。運動代わりに行くか。

「分かった。下で待つてくれ。」

とりあえず死刑宣告もこれができる

「…分かった。20分以内に来なかつたら、子供をつくる。」

いろいろ飛びすぎだろ。

とりあえず、早く行くか。

明久達も来るだろうし。地獄へは俺達みんなで行くのが、友達だし
な。異端審問会がいなけりやいいがな。

第71話 僕らと彼女と如月グランドパーク2（後書き）

残り1カップルは平賀×大島ペアです。詳しくは一期の12話あたりをどうぞ。

第72話 僕らと彼女と如月グランドパーク3

緋色 side

今、6人で如月グランドパークの入り口まで来ている。

「帰ろうか。」×3

「帰さない。」×3

優子が最近、強くなつてる気が…

「ねえ、あれ、平賀君達じやない？」

あー、Dの代表か何かの。

「ちっ、なんてうらやましいんだ！」

お前も似た状況だがな。

「いらっしゃーい、如月グランドパークへようこそ。」「デュ

オだろ？何してんだ？」

なら残りのメンバーも…

「お客さん、何言つてんだい、俺は、一重奏精靈王、通称ファザ

ーだぜ。デュオ…なんて知りません。」

中二病的な名前だな。あだ名の由来分からないし。

「お客様、失礼しました。チケットをお見せください。」

雄二が六人分をだす。

「「「それ、使えないの？」」

女子勢が動き出したか。

「いえ、大丈夫です。こちら、道化師、茄托、作戦開始だ。」

吐露和はサークスにいたしな。

「では、カップル別に写真を撮ろうと思つので、並んでください。」

カメラマンなんていないが…

サツ

あれはムツツリーーーだな。

「翔子、すまない。」

「ごめん、秀吉。」

みえないぐらいまで明久と雄一が彼女のスカートを上げる。
そしてカメラマンが鼻血をだして倒れた。

第72話 僕らと彼女と如月グランドパーク3（後書き）

緋「そういうや、なんであと一組が平賀達なんだ？」

「ちょうど一期みたら、肝試し編で出てきたカップルだったので使ってみました。」

緋「まだ、見てない読者に謝れ。」

「ネタバレしてしまい、すみません。感想等、お待ちしております。」

第73話 僕らと彼女と如月グランドパーク4

緋色 side

カメラマンは鼻血をだしつつ、シャッターを切っていた。

「「どうやら、本質は隠せないみたいだな、ムツリーー。」」

雄一と声が何故か揃つた。

「「続きはベッドで。」」

おかしい方にとんでもるな。絶対。

「やらないよ。秀吉の下着には興味あるけど。」

お前の今の行動を公然猥褻というはずだ。雄一は…

「やらねえよ。お前の下着になんか興味ない。」

これは正解だな。

メシメシメシイ！

「ぐわあああああああああ！」

雄一の頭蓋骨が大変なことになった（笑）。

「緋色は気にならないの？」

なぜだ優子。俺は交番には行きたくないんだが。ここは、適当に。「気にならないといえば嘘になるが見せびらかす物じゃないと俺は思つ。」

「写真をとるのでお互い手を握りあつてください。」

俺は優子と手を繋ぐ。

特殊加工が何か知らないが、優子に任せとおこう。

「よし、行こうぜ。」

何に乗るかなんて知らないから雄一に任せるべきか。

「何処に行く？翔子。」

任せた俺がバカだった。

「フリーがとつても×3面白いアトラクションを紹介するよ。」

桃色の髪の毛がはみでてる狐がいた。中身はおそらく…

「姫路だな（だね）。」 × 3

第73話 僕らと彼女と如月グランドパーク4（後書き）

次回から平賀カップルと合流予定です。感想等を待つてます。

第74話 僕らと彼女と如月グランドパーク5（前書き）

久々にアクセス数確認したら、700000PV7000G+一ヶ月超えていました。こんな駄文を読んでいただきありがとうございます。今後ともよろしくお願ひします。

第74話 僕らと彼女と如月グランドパーク5

雄一 side

声も変えないとは…

「おまえのオススメは?」

この答えの施設に罠がある。

「フリーのオススメはおばk」

「平賀達と合流するか。」

翔子に何か吹き込まれたら大変だしな。あれは?根本?あいつもか!

「散開!」

平賀達の所まで行くぞ!

こういう時こそアイコンタクト。とても便利だな。

「平賀ー!」

緋色が珍しく叫んでいる。

「どうした?坂本君、吉井君、緋色君。」

「どうせなら、一緒に行動しないか?」
「どうより、行動する。」

味方は多い方がいい。

「いいよね?大島さん。」

「平賀君がいいならいいけど。」

「すまないな、大島。だが、平賀はたぶん襲われる。俺達と同じでな。」

「どういう意味だい?」

「女子と仲がいい奴は殺される。」

「俺は違うと思うが…」

「それに根本が参加していた。」

「見つけた。お化け屋敷に行く。」

地獄からの使者が着たか。

「平賀達も連れていっていいか?」

「うん。」

×3

理解が早くて助かる。

「じゃあ、行くか、お化け屋敷（地獄）へ。」

「うん。」 × 4

「本音が聞こえたぞ」 × 2

「ひして俺達はお化け屋敷に入った。」

第74話 僕らと彼女と如月グランドパーク5（後書き）

次回からお化け屋敷に入ります。

第75話 僕らと彼女と如月グランドパーク6（前書き）

今、テスト期間中。まだ、前の結果は見せてません。 酷かつたので
火曜あたりから更新出来なくなると思います。

第75話 僕らと彼女と如月グランドパーク6

緋色 side

「結構雰囲気でてるな。」

こんなものか。

「病院に墓があるのが気になるが。」

何か出てくるな。

「大島さん、大丈夫だよ、君は僕が守り抜く。」

「平賀君、ありがとう」

これがデュオがいつてるバカップルという奴か？

「…雄一、×「嘘言うな。」嘘じやない。」

「…じのほ…きだな…きいし。」×4

この声は…

「姫路の方が好みかな、胸が大きいし。」×4

俺達男性陣の声があのスピーカーあたりから聞こえるな。

「浮気は死んでも許さない。」×4

平賀の彼女も落ちたか。

「おお、翔子、何か出てきたぞ。」

でてきたのは…釘バット、テエーンソー、斧、鎌等々様々だった。

「死んでたまるかー！」×4

「おらおらー、死神様の御通りだー！」

デュオがいたのか。

「さあ、異端審問会の皆様がんばってね。」

「あいつらをころせー！」×四十一近く

この後、優子達と異端審問会に一時間追われるはめになった。

「結婚したくなりましたか？」

なるわけがない。

「カップルが窮地に立たされると愛が深くなる、ときいてますが。

まあ、次はディナーがあります。」

俺達はファザー？にについていた。

第76話 僕らと彼女と如月グランドパーク7（前書き）

久々の投稿です。遅れてしまふかもしれません。テスト期間だったので投稿出来ませんでした。

第76話 僕らと彼女と如月グランドパーク

緋色 side

そろそろ昼飯か。ファザー（笑）についていく。

「これから豪華ディナーが用意しています。」

「ディナー？ 夕食か？ 昼だよな。

「…あ」

「どうした？ 翔子。」

「…いや、何でもない。」

移動中

「みなさん、お集まりいただきありがとうございます。」カトルまでいたか。

「この中には結婚を前提におつきあいしている、高校生のバカップルが四組います。」

「バカップル？ 四組？ 三組じゃないのか？」

「というわけで第一回ウェディング体験を手に入れるのか誰か、クイズ対決ー！」

「イエー！」

誰だ、ノリノリの奴は。

「第一問、結婚記念日はいつでしょうか？」

何故だ、意味が分からぬ。ピンポン！ × 4

何故分かる！

「私達に愛がある限り、常に結婚記念日。」 × 4

やめろ、自爆して今のせりふを聞いた奴を俺達もろとも灰にしたい。

「正解でーす。」

「おかしいだろ！ あとやめてくれ、恥ずかしすぎる。」 × 4

満場一致だ。似たもの同士ということか。これは俗に言つ出来レース？ というやつか？

もし、そなうなら、四組用意してないはず。

生き残るのは
この俺だ！

第77話 僕らと彼女と如月グランドパーク8（前書き）

ディオデイシムを最近やけに始めているんですが、セフィロスのフォースフォームがとてもかっこよくて、虐殺を行つてます。一秒殺しひとか。

まあ、どうでもいいと想つので本文に入りましょ。

第77話 僕らと彼女と如月グランドパーク8

緋色 side

出来レースなら、手を出さないべきか。

「第一問、結婚式が行われるのは何処でしょうか?」

「これぐらいなら雄一は乗るだろ?」

「ピンポーン!」

「雄一、がんばれ。」

「ローストビーフ味のポテトチップス定価126円…」

「この返しは以外だったな。」

「正解でーす!」

「何!」

「結婚式が行われるのは、朱雀の間、別名ローストビーフ味のポテトチップス定価126円で行われまーす!」

「おかしい。客が言い返さないと、ほとんど生徒なのか?にしても…」

「それは明らかに今作つただろうがー!」 ×4

「男性陣がハモる程おかしいというのは理解して欲しい。」

「第三問、あなたの方の出会いはいつでしょーか?」

「これは頂く!」

「ドン!」

「これは、後ろからやられたか。雄一以外やられている。油断したな、雄一は目をやられてるし。」

「…小学校。」

「正解です。では、第四問、」

「これは頂く!」

「イヴウォーズまでに99812人。」

「これなら…」

「正解でーす。では第五問。…」

「ちょっと待てやー!なんでこんな奴等だけ特別扱いなんだ、俺達

は、御・伽・苦・叉・魔だぞー。」るああああー。」

「私達もウハティイ…」

チンピリへ。せんぴりへ。どちらか知りんが迷惑だな。

第77話 僕らと彼女と如月グランドパーク8（後書き）

最近、お気に入り件数が増えてきてとても嬉しいです。登録していく
れている皆様ありがとうございます。
感想やご要望などもお待ちしています。

第78話 僕らと彼女と如月グランドパーク9（前書き）

休日つてとても勉強する気でませんよね。おかげで成績が悪くて困つてます。

第7・8話 僕らと彼女と如月グランドパーク9

緋色 side

これはチャンスかもな。あいつらなら出来レースは無理だろうからな。

このまま、行けば雄一達になり、俺達は解放される。一時的に。

「問題だぞ！ヨーロッパの首都は何処か答えてみやがれ！」

この問題がでた瞬間沈黙が訪れる。そして俺は気づいた、世の中には下があるものだと。明久よりバカがいたとは…

「正解でーす！」

「あ？おかしいだろ？」

「ヨーロッパは国でなく州のため、首都はございません。」

あの司会者、ニコニコしてるが、恥をかかせようとしてる。

「一番、正解数が多い坂本夫妻（笑）にはウエディング体験をしてもらいます。」

なぜか笑われてる。

「（笑）とは何だ！あと拒否権はないのか？」

「もちろん、ない。」

「優子、残念だつたな。」

とりあえず励ます。

「緋色、負けたからキスして。」

「公然とするわけにはいかないだろ。あと、一度着て、結婚式を迎えるより、初めて着たもので式を迎えた方がいいだろ？」

問題は、皆に聞かれた事か。

「うん、そうするわ。」

客達ががおかしな反応を…

「なんとも惜しい。このカツブル達も手放したくなかったですねー、まったく惜しい。」

気づいたら、明久達も似たような事になつてゐる。

第7・8話 僕らと彼女と如月グランドパーク9（後書き）

次回、ウェディング体験になります。
感想等お待ちしております。

第79話 僕らと彼女と如月グランドパーク8（前書き）

あと23話くらいで如月ハイランド編は終わる予定です。
次は合宿に行こうと思います。

第79話 僕らと彼女と如月グランドパーク8

緋色 side

今、雄一達は衣装に着替えており、関係者達が教会に集まる。俺達も。

「それでは、ウェディング体験を始めよつと思ひます。」

カトルを久々に見た気が…

「新郎様の入場です。紹介はちんぴらの乱入により、時間が遅れているのでしょうかくします。」

適當だな。

「本音は？」

隣の工藤？が聞く。

「体験だから、紹介したら、本番の楽しみが減るじゃないか。」

嘘つけ。面倒くさいんだろう。次は新婦か。

「続いて、今イベントのメインヒロイン、坂本翔子様の入場です。」

「勝手に入籍させるな！」

雄一、ナイス突っ込み。

「綺麗ね、緋色。私なんかより。」

人それぞれに魅力はそれぞれだしな。

「俺は優子の方がいいが。」

「ありがと。」

どうやら、二人が真ん中に着いたようだ。

「…私、お嫁さんに見えるかな？」

さあ、どう答える？

「婿には見えないぞ。」

それは酷いと思うが、一種の愛だら、ツンドラかツンデロか知らんが。

「…嬉しい。私はずっと、雄一のお嫁さんになることが夢だったから。」

「マジ、そういうのいいから、早く進め！」

「私たちい、暇じゃないんすけど、お嫁さんが夢？おかしいんじやないの？」

明久と平賀が殺る気が見える

第79話 僕らと彼女と如月グランドパーク8（後書き）

また、お気に入り登録数が増えました。してくださった方、ありがとうございます。

今後もよろしくお願いします

第80話 僕らと彼女と如月グランドパーク9

(前書き)

前回の前書きであと23話とか書いてましたが、2、3話の予定です。

第80話 僕らと彼女と如月グランドパーク9

緋色 side

「待て、二人とも。せつかくの雰囲気を崩すな、後でやりに行くぞ。」

「これで二人は落ち着くだろ?」

「あれ? 花嫁さん? 皆様花嫁様を知りませんか? できれば皆様も探してください。」

できればか。なら、お言葉に甘えさせて。

「雄一。」

「翔子の事ならパスさせてくれ、便所いきてえ。」

嘘がバレバレだな。

「どうせ、チンピラを潰すつもりなんだろ? 僕らが殺つてくれるぜー!」

デュオ、カトル、トロワ、五飛が来た。

「カトル、暴走するなよ、二年前みたいに。」

あれは虐殺の体言者だな。

「おっしゃあ、久々の戦闘だな、行くぜ相棒!」

「久々の仕事だな。」

「行くよ、サンド、ロック。」

カトル曰く、右手のショーテルがサンド、もう一方がロックらしい。

「正義は俺が決める!」

「緋色由比、出撃する。」

こづして5人で処刑に向かつた。

side out

雄一 side

翔子はこのあたりに…いた。

「翔子!」

俺は気づくように大きな声で呼ぶ。

「…雄一？」

泣きそうな顔をした翔子が振り返った。

第80話 僕らと彼女と如月グランドパーク9

(後書き)

妙なところですみません。うまく行けば、次回で終わります。その後に哈宿編に行こうと思います。

第81話 僕らと彼女と如月グランドパーク10

(前書き)

今回は、翔子視点です。

第81話 僕らと彼女と如月グランドパーク10

翔子 side

「せっかくの体験なんだ。記念品ぐらい、持つて帰つてもいいと思うぞ。」

といつて私にヴェールをかぶしてくれた。

「…雄二、私の夢、変？」

「言つておぐが、今までのお前の気持ちは勘違いだ。俺は責任をはたしたにすぎない。長い間、こんな人間に時間をかけさせてしまなさい。」

そんなことはない。

「だが、確かに俺はお前を好きなのかもしれない。しかし、お前にあがいるとお前に迷惑がかかる。そして、ずっと一人の人を思い続けることは胸を張つていいことだ。」

私の夢は変じやないみたい。

「あと、弁当、旨かつた。」

雄二が笑いながら私のバッグを見せる。

「翔子、もう一回考え方直してくれ。もし、本当にいいなら、正式につき合つてやる。」

私は…

「雄二！、私はやっぱり何も間違つていなかつた。」「この人についていく。何があつても、一生ついていく。これは、あの時からの私の夢。」

「じゃあ、帰るか。あんま遅いと誤解されるしな。」「おめでとう、一人とも。」

木から降りてきたのは優子と紺色だった。

「てめえら、隠れてたのか？」

さすが、もと兵士。嘘ではないみたいだ。

「用が済んだし帰るか。」

緋色達の後を私達はついていく

第81話 僕らと彼女と如月グランドパーク10

(後書き)

どうでしたか？次は強化合宿です。
感想等もお待ちしています。

第82話 僕と脅迫と強化合宿（前書き）

やつと3巻に突入。とてもスローという実感があります。気にせず
本編に行きましょう。

第82話 僕と脅迫と強化合宿

緋色 side

普通の朝だった。いつも通り、優子と朝を過ぎし、明久達と一緒に学校に来た。そこまでは良かった。明久の靴箱に一通の手紙が届いた。

それは、脅迫状であった。

向こうで明久が騒いでいる。内容は知らないが、明久の女装写真が入つていていたのに俺は驚いた。

「明久、目覚めたか。さようならだ。」

慈愛に満ちた目で見送るつか。

「緋色、助けようとは思わないのかの？」

俺より詳しい奴いるだろ。

「ムツツリー二に訪ねたのか？」

あいつはこういう専門のはずだ。

「そうじゃ、ムツツリー二がある。明久行こうかの。」

気づいてないとは…

「笑われる！」

それは意外だ。

「この手はムツツリー二が専門じゃろうて。」

「さすがだよ、秀吉。さすがは僕のお嫁さん（予定）だよ。」

秀吉が拗ねてるように見える。

ついていこうか。

「むつ「俺が先だ。」雄一、どうしたの？」

どうせ、将来についてだろ。

「明久が清涼祭の時のアレを録音していた。あいつは機械音痴だから出来る分けない。」

なるほど。

「明久、何をした？」

「雄一にプロポーズ的な事を言つてるフリをさせた。

「なんだ、お前、前に告白したじゃないか。」

「明久が？」を浮かべている。

第82話 僕と脅迫と強化合宿（後書き）

感想等を待つてまーす。

第83話 僕と交渉と強化合宿

緋色 side

「緋色、告白つて？」

ああ、こいつは先に帰つてたな。

「ところで明久は何の用なんだ？」

逸らした。完全に逸らした。

「えつと、僕の女装写真が全世界に……」

「そんなものはどうでもいい。」「

ハモつた。よくハモる気がする。

「デュオ、協力してやつてくれ。」

近くにいたから巻き込む。

「依頼かい？ 緋色？」

「明久の女装写真が全世界に……」

「りょーかい。報酬は？」

もちろん、

「現金だ。明久の。」

やめてくれ、みたいな顔だな、明久。

「だつて、今月神ゲーが週一発売なんだよー。」

こいつ、確かに、生活が。

「生活改める。」「

またハモつてしまつた。

「じょうだんだよ、明久。その代わりにお前に言つておく。お前の

女装写真、かなり人気あるぜ。」

確かに、分かる…わけない。

「ムツツリー、僕の宝物一つでいいかな？」

「俺も秘蔵コレクションの一冊で頼む。」

本か？ムツツリー＝口

「ちなみに何の本？」

「ちなんに何の本？」

デコオまでハモるとは…呪われている。

「「「工口本！」」」

叫んだ、こいつら。第三者から見たら変質者だな。

「さて、そろそろ時間だな。」

「頼んだよムツツリーーー。」

暇だしな。手伝つか。

第83話 僕と交渉と強化合宿（後書き）

今回、縦がとても長い気がします。
感想等待っています。送ってくれると嬉しいです。

第84話 僕とバスと強化合宿（前書き）

今日は退屈な為、早く投稿しました。

第84話 僕とバスと強化合宿

緋色 side

今、バスの中にいる。しかし、いつものメンバーではない。
答えは優子達に拉致された。雄二とカトルと俺が：

「カトル、ゼロシステム使うか？」

ゼロシステム。それはシステムが状況を判断し、直接脳に送り、戦闘力を高めるシステムである。そのおかげでシミュレート結果が脳に送り込まれ、その負担で死んだ人も多い。

「緋色、説明長すぎだよ。後、僕は克服済みだよ。」
そういえば…

「何の話？」

一般市民は知らないしな。

「それを持ってきてたりしてないよな？」

雄二「まさか…

「まあ、置いといて、何故俺達を連れてきた？」

「会いたかったから。」

男子の目線がとてつもなく痛い。

「それだけ？」

それだけで拉致るとは伊達じゃない。

「リア充は死ね！」 × 2 1

リア充？知らないな。

「…そろそろお昼。」

何時間眠つたのだろうか？

第84話 僕とバスと強化合宿（後書き）

ゼロシステムの簡単な説明をさせて頂きました。ぼちぼちこんな感じなのがあると思います。

第84話 僕とバスと強化合宿2（前書き）

pv80000ユニーク8000達成！よんでもくれる方ありがとうございます。駄文ですがこれからも読んでくれると嬉しいです。

第84話 僕とバスと強化合宿2

緋色 side

俺達はAクラスの人たちといいる。会いたいだけで拉致された。

「そういえば、優子達って、同棲してるんだよね？」

それが？

「ええ。でもどうしたの？」

確かに…工藤の事だから食事にふさわしくない会話だらうが…

「どこまできつたの？もしかして、子供の名前まで考えたりしてる

？」

子供か。遠い未来だな。

「そ、そんな訳ないじゃない。」

考えてたな、絶対。

「「「お薦めは？」」」

なぜ、はもるんだ！

「男の子だつたら翔で、女の子だつたら佳奈かな？」

両方考へてるだと！

「優子、いつの間に。」

そんな暇ないだろ。

「授業中や休み時間。」

「でも、僕達とお話してゐるよね。浮氣防止とか、色仕掛け等の。」

「同時進行でやつてるわ。」

優子の脳内凄そうだ。

「そうか！分かつたぞ。」

カトルがいきなり叫ぶ。

「愛子がよく露出度の高い服で来るかが。」

あいつ何やつてるんだ。

「よくアウダとかラシードとかにからかわれるけどね。」

「ラシード？あのモノアイ部隊の一人だな。」

「あいつ生きてたのか？」

死んだのかと思った。

「39人生きてるよ！」

あれ？40じゃ？

ひとりは死んだのだろう。

第84話 僕とバスと強化合宿2（後書き）

マグアナック隊について。

マグアナック隊とは、40体のマグアナックというモビルスーツで形成される。カトルの援護部隊である。39の理由は、途中で一人裏切ったから。ちなみにマグアナックはアラビア語で家族である。知らないくらいの知識ですが、一応書いておきました。感想等を送つてくれるとうれしいです。

第85話 僕とバスと強化合宿③

緋色 side

明久達何やってるんだろうか？

「雄二、明久達、何かしてるだろうか？」

「心理テストやった後に飯で姫路の奴を食わされて川をさまでて
るあたりじゃないのか？」

「こいつ、たぶん頼んだいだのだろう。

「もしもし、デュオだぜー、明久が姫路の料理食つて倒れたんだが、
どうするべきだ？」

おまえ、知らずに協力してたのか。

「姫路はいろいろな薬品を食べ物に混ぜている。」

「え————！」 × 5

しらない奴多いな。

「おい、五飛、早まるな、トレーズはその川にはいない。」

五飛すら駄目なのか。

「まあ、合宿所が近いみたいだから、そのとき。」

とりあえず忘れよう。

「ありがとう、愛子、君は命の恩人だよ。」

その台詞…

「トロワにも言わなかつたか？」

「人生のパートナーが抜けてるぞ。」

雄二め、他人を巻き込む氣か。

「いや、まだパートナーはサンドロッグだよ。今はショーテルだけ
ど。」

ある意味悲しい人間だな。客観的には。

「え？ カトル君はボクをどうでもいいと思つて…」

とりあえず

「明久達の迎えが先だな。」

「そのとおりだね。
スルーをしておく。
二人の無事を祈るか。」

第85話 僕とバスと強化合宿3（後書き）

バスの中がとても長かったです。やっと入れます。
感想等をお待ちしています。

第86話 僕と川と強化合宿（前書き）

ガンダムW本編に触れてみよっと思っています。しばらくは用語の説明などです。

今回はガンダムについてです。

ガンダムとは、ガンダニコウム合金で作られたモビルスーツを指します。

次回は原作の年号A.C.です。

第86話 僕と川と強化合宿

明久 side

この川は？あ、あの人は教科書に乗つてた、トレーズクシユリナーダだ。隣で話してるのは五飛？何話してのだろう？

「マリー・メイアが世話になつたな。すまない。」

マリー・メイア？どこかで…

「俺は自分が本当に正しいか確かめたかつただけだ。お前はあの時、死んだよな？」

死んでるはずだ。

「五飛、私は今も生きている。これは、臨死体験だ。」

え？というより、起きなきや！

グボラアツ！×2

「やつと目覚めたか。」

あれ？皆どうしたの？

「何やつてた明久、五飛。」

トロワが聞いてくる。

「トレーズにあつて話をした。奴はまだ生きてるらしい。」

「僕は一人の話を聞いてた。トレーズさんは臨死体験中だつたらしい。」

元兵士の四人が驚いてる。

side out

トレーズ side

やはり、臨死体験で五飛と会えるとは。

「どうしたのですか、トレーズ様。」

レディアン。昔からの部下であり、マリー・メイアの保護者になつてくれた、火消しの金こと、プリベンター・ゴールドだ。

「懐かしい友にあつたよ。川で。」

自分から行つたが、危なかつた。

「トレイズ様は教師になるのですね。」

「

「ああ、懐かしい友達のいる、あの学園へ。」

」

第86話 僕と川と強化合宿（後書き）

トレーズ復活。無茶苦茶なのは分かっています。でも死ぬには惜しい人なので出しました。

感想等お待ちしております。

第87話 覗きと濡れ衣と強化合宿（前書き）

今回は緋色達が地球に降下してきたきっかけにもなった、オペレーションメテオについてです。

この作戦は移住空間コロニーを流星のように地球に落とし、その後ガンダムが地球を制圧する作戦でしたが、緋色達を育てた5人の科学者が作戦内容を変更したため、本来のオペレーションメテオが行われる事は無かつた。

長くてすみません。では本編をどうぞ。

第87話 覗きと濡れ衣と強化合宿

緋色 side

トレーズ、生きてたとはな。

それは、いいか。会わないはずだし。

「全員、手を後ろに組んで、動かないで！」

え？ とりあえず

「デュオ、こういうときは窓から飛び降りると全員を消す、どちらがいいだろうか？」

効率的には後者と思うが、補修送りになるから

「もちろん、窓からだぜ、明久、雄二、ムツツリー、俺達についてこい！」

女子が驚いてるぞ。その前に何故こうなったんだ？

「ムツツリ、雄二バリア！」

といつて女子の前に連れ出す。

「行くぞ明久、隣の奴に話は聞けばいい！」

二人は注意を引き寄せるための餌として使わせてもらつた。

「五飛！」

「でやああ！」

ドラゴンハングナタク版

痛いだらう。

バリン！

デュオ、突っ込んだが、そろそろだな。

「みんな行くよ。」

カトルの合図で皆窓から飛び降りる。

「あいつらバカすぎでしょ、ここ三階よ！」

「そりゃー、失礼すぎだろ、俺達は普通のクラスじゃないからな！」

追伸、怒ってばかりだと老化は早くなるぜ、おばさん。」

デュオ、嫌がらせにしか聞こえないが。

第87話 観きと濡れ衣と強化合宿（後書き）

次回の前書きはヒイロコトイについてです。

第88話 覗きと濡れ衣と強化合宿2（前書き）

今作主人公のヒイロユイは偽名である。本名は不明です。

父は本当のヒイロユイを暗殺した、アデインロウという狙撃手。ローラー革命のときに自爆死、母はエージェントだったが、息子を助けようとして炎に包まれ死亡。この二人は紹介するかもしれません。本人は最初は任務失敗をしたとき自殺を試みたが、骨折までしか届かなかつた。そして力技で骨折を直す技術を身につけた。

第88話 覗きと濡れ衣と強化合宿2

緋色 side

久々だな。高いところから降りたのは。

「雄一、ムツツリー二大丈夫か?」

先ほどドラゴンハングに掴まれたまま飛び降りたしな。

「いてえじやねえか、五飛。」

そりや、戦闘用だし。

「我慢しろじゃないと…」

「雄一、逝つてらっしゃい。」

「…浮気は許さない。」

「ダッショ!」 × 7

ムツツリー二、次はお前だ。

「土屋くーん、お話が…」

姫路と後ろのは…

「一ーたー、生きる覚悟は?」

冥福を祈る。

「ムツツリー二」 × 3

次は…

「とりあえず補習受けるか。」 × 5

鉄人の愛称で呼ばれる西村宗一さん。三つ田の名が文月の悪夢。

「吉井も觀念しろ!」

いや、觀念はしてない。

「皆、どうしたのさ?」

分からぬ君は幸せだな。

補習中

「こうなつたりせりへやれいぢやないか。女子風呂をのぞきこ行くぞ。」

何があつた。

「あ、緋色達、良いところだ…
未来は見えているはずだ…」

「断る!」 × 5

「なんだと!」 × 3

驚かれるとは一ひらが驚く。

第88話 覗きと濡れ衣と強化合宿2（後書き）

お気に入り件数増えました。してくださった方ありがとうございました。
次回は『デュオマックスウェル』についてです。

感想待つてまーす。

第88話 覗きと濡れ衣と強化合宿2（前書き）

デュオマックスウェル。由来は小さい頃、盗みに働いていてそのリーダーがソロ。これは独奏の意味で、一緒にいるということで二重奏、デュオがついた。マックスウェルは彼が世話になつた教会が由来である。ヒルダとは捕まつた後に脱走したあとに兵士志望者だったヒルダと出会う。

今作では、原作の雰囲気的に恋人になつています。

第88話 覗きと濡れ衣と強化合宿2

デュオ side

まさか、ここまでバカとは思わなかつたな、さすがに俺も。

「だめだよ、明久、君は木下さんの裸が…」

カトル、それじゃ緋色が…

「僕は木下さんの裸になんか興味ないよ。」

「任務了解、ターゲットロックオン。」

やはり。って待て！バスターライフルは処理が大変なんだよ！

「落ち着け、緋色。」

トロワ、ありがとな。

「デュオ、緋色、理由は朝のことに関係してるんだ。」
のぞきと写真がまったくつながらない。

「朝のこと？」 × 3

そーいや知らなかつたな。

「明久と雄一が脅迫されている。」

どうでるか。

「だが、まったく話が見えない。」

五飛、それは俺達もだ。

「ムツツリー二の情報だと、犯人は尻に火傷があり、自分の事を乙女と言つてるから女子だろ。これで分かつたろ？」

答えは、

「断る。眠いし。」 × 5

最近ハモリすぎだろ俺ら。「何故、兵士がそんなことを言つべきはずが…」

おまえ、忘れたか？

「俺達は、」 緋色

「兵士の仮面を取つた。」 トロワ

「つまりなー、」 僕

「戦いとは無縁なんだよ。」カトル。

「いいことを代わりに教えてやる。我が一族の教えだ。」

それは、あれだよな？

「俺達に倒された奴が悪だ！」

第88話 覗きと濡れ衣と強化合宿2（後書き）

そういえば、エンドレスワルツの小説よんでも氣づきましたが、五飛とか、ゼクス達とか、トロワなどは話が矛盾します。それはともかく、次回はトロワバートンについてです。感想でもアドバイスでも送ってくれるとありがたいです。

第8・9話 バカと覗きと強化合宿（前書き）

今回はトロワバートンです。

緋色と同じでこの名は「コードネーム」である。

本当のトロワはベビーアームズの作成者の助手に殺される。詳しくはエンドレスワルツを見れば分かります。

本人は十歳から傭兵として働いていたが、ベビーアームズの整備士になる。ちなみに心の中で会話をしている。

第89話 バカと覗きと強化合宿

トロワ side

五飛、それはあいつらに対する嫌がらせだ。
「さすが五飛だ。」

「俺達こそ正義。」

「つまり何をしても間違つていない。」
やはりな。止めなくていいか。

「おい、五飛、そんなこと言つたら……」
たぶん、ズタボロになつた後に補習だな。

「いくぞ、明久、ムツツリーー。」

「おお！」 × 2

この後の結果は大体の人は予測つくだろう。

「さて、明久達の戦いぶりでも見に行きますか？」

面白そうだな。

「ああ。」 × 4

満場一致により移動。

廊下

雄二 対布施先生？

「おまえ等助けてくれるのか？」

まさか…

「見に来ただけ」 × 5

「おい、嫌がらせか？」

そんな訳ない。

「俺達は明久を見てくる。」

緋色、デュオ、明久退場。
たぶん相手は鉄人だろう。

あ、
雄一がやられた。

第8・9話バカと覗きと強化合宿（後書き）

次回はカトルです。本名は長いので次回のみ使う予定です。
感想等くれたら嬉しいです。

第90話 バカと合同学習と強化合宿（前書き）

カトル・ラバーバ・ウイナーは唯一ミドルネームを持つているキャラです。普段は温厚で優しいのですが暴走すると数万人の人を躊躇無く葬つたりしました。そしてトロワですら記憶喪失にまで追い込まれた程です。

第90話 バカと合同学習と強化合宿

カトル side

今は強化合宿一日の朝

いつもみたいに起きたら紅茶を飲みたいけど、ないからしかたない。
昨日は当然三人のボロ負け。当然といえば当然だけど。

合同学習ば始まるかな、急がないと。

「…雄二、勉強も一緒に出来て嬉しい。
も、という所は別におかしくはない。」

「坂本夫妻は、相変わらずアツいねー。」

まさか…、明久がクラスメイトと一緒に上履きを構えている。

「総員、上履きを持てー！」

戦闘体勢だね、秀吉がいたら…

「何やつてるのじや？ 明久。」

本当にいた、なんかあたるね兵士のかん。

「カトル君たち、一緒していいかな？」

愛子は少し遅れたみたいだ。「えつと工藤さん？」

疑問系なのはスルーして。

「そうだよ、アツキー、いや秋ちゃんとでも呼ばうかな?
確かあれば明久の女装の時の名前だつたつけ？」

「すみません、工藤様、せめてアツキーでお願いします。」

黒歴史なんだろあれ。僕のよりかは生優しいけど。

「僕、最近、これにはまつてるんだよね。」

ボイスレコーダー? 授業の録音? いや愛子の場合それはオマケだ。

「おい、明久、工藤が犯人か確かめてほしい。」

愛子がそんなことするわけ…

完全に否定できない。

第90話バカと合同学習と強化合宿（後書き）

フローズンティアドロップ4巻買いました。内容はいいませんがよかつたです。ちなみに26日にサンドロックのガンプラや敗者たちの栄光2巻と同時発売でした。

第90話バカと合同学習と強化合宿（前書き）

張五飛。この読み方は「ちゅう」ひじゃなくてチャンウーフェイだそうです。

名前の由来は三国志の張飛かららしく、彼も東洋人です。正義が愚かとしりつとも確固たる正義を持ち続けていた。しかし、バートンの乱では本当の正義を確かめる為に悪になつた。蛇足ですが、五飛には妻がいて名前が竜妹蘭でした。しかしトルギスに乗つて戦い、そして自爆に遭い死亡。それから五飛は自分の機体を那託と呼ぶようになりました。

第90話バカと合同学習と強化合宿

五飛 side

相変わらず、デュオ並のバカがたくさんいるな。

「おい、五飛、それが戦友に送る言葉か?」

お前確かに昨晩こういったはづだよな?

「俺達は兵士じゃないと言わなかつたか? 兵士でもない奴に戦友はない。」

兵士以外戦わないしな。

「はいはい、私がわるいございました。」

明久達が面白いことになつてれば良いが…

関節が外れてる明久

石畳を置かれてるムツツリーー

目を押されて苦しむ雄二

なかなか戦場じや見れないな。

「感心してないで助けろ!」 × 3

相変わらず一般とずれてるな。俺達がいえないが。

「もう少し静かにしてくれないか? 吉井君達。」

メガネ男子が来た。昔の俺を見てるみたいで腹がたつ。

「ごめん久保君。」

あいつ顔が赤いな、熱とかではないようだがとりあえず…
ヒュー ヒュー!

ドラングングで頭を掴み叩きつける。すつきりするな。那詫と一体化してくる気分にもなれるし。

「五飛、何やつてるんだよ。」 × 2

二人相手か。

「いいだろう、正義は俺が決める!」

久々の肉弾戦だな。鈍つてないといが。

「違うよ、五飛、聞きたいのは久保君に攻撃した理由。」

ああ、それは…

「無償に叩きつけたかつたから。」

これで納得するはず

第90話バカと合同学習と強化合宿（後書き）

感想やアドバイス、ご要望お待ちしております。

第91話バカと合同学習と強化合宿2（前書き）

しばらく原作についての解説は休ませていただきます。理由は、人の説明をとりあえずしておいた方がいいと思つただけなので。くこと無かつたらまたしますが。

書 5

第9-1話バカと合同學習と強化合宿2

緋色 side

五飛が久保?を叩きつけてる間に明久と工藤のやりとりでも見とくか。

「工藤さん、君が僕にお尻を見せてくれると腕があああア変態だな、堂々と浮氣とかお前はデュオか?」

「緋色、いつ俺が浮氣したんだよ?」

自分で言つてたじやないか、気が多いと。

「よしいくーん、気持ちは嬉しいけど無駄な相談かな?」
こいつもイカれてる。ろくな奴いしないな。聖ガブリエルの方がマシかもな。

「吉井君、君のおかげで完成したよ。」

一体何が?

機械の再生音の後

「工藤さん、僕は君がほしい。」

明久の声の合成であつた。

「次は右腕じゃな。」

さつきは左腕折ったのか、多少の情けはあるんだな。

「助けて緋色。」

大丈夫だ明久、もしもの時は、

「強制的に骨折を直してやる。」

他人にするのは痛くないからな。

「優子、俺とやらないか?」

「工藤か。軽く、四肢の関節離した後に、脊髄離そうかな?」

「緋色、そういうこと人前では言わないでよー。」

人前では?

「工藤、脊髄矧がされるのと、四肢の関節離されるのどちらがいいか答える。」

どつちも当然

「死ぬほど痛いがな。」

「愛子には手を出させない。」

カトルと戦うのは久々だな。

』

第9-1話バカと合同学習と強化合宿2（後書き）

無茶苦茶にバトルシーン突入。果たして勝のはどちらか?
感想等を頂けると嬉しいです。

第92話バカと戦闘と強化合宿（前書き）

いやー、文化祭だるいですね。うちの学校は文化祭と言いつつ、クラスでの出し物なんかなく合唱と学年毎の発表ぐらいしか無く、しかも、体育館に閉じこめられるという嫌な状態でした。小説とはずれていますのでここまではとします。

第92話 バカと戦闘と強化合宿

緋色 side

「はあ！」

得意のクロス斬りか、甘いな。

「モブキヤラバリア！そしてモブキヤラタックル。」

一人はカトルにクロス斬りを喰らい、もう一人は…
「いただく！」

ビームサーベルでカトルと一緒に貫く。

「ぐわあああああああ！」 × 2

「さすが緋色、ウインドを倒しただけある。」

あれは肉弾戦じゃないがな。

「あいつはもうウインドじゃないだろ。」

キュレネの風、又はゼクスマーキスだな。

「ラシード、ショヘラザードを。」

あいついるのか？

「Jの土地」と消すか、ゼロなら一つの島ぐら^イ軽く消せるだろ？

実際そのぐら^イのものをしとめたしな。

「カトル君、やめてよ、確かに僕が悪かつ、痛い痛い、やめて緋色

君、きやあああ。」

女子の悲鳴とはこんなものか。

「緋色、何でしたのさ？」

それについては

「俺が一分あれば直せる、そして主はJにいた、右関節を外されたら左関節を差し出せと。」

この国は仏教が多いから多分出さないだろ？

「緋色、Jの国は仏教の国だよ。主じやなくて仏はじやないのかな

？」

いや、まあ、やうこへせ差し出すものじやないだろ。

第93話 バカとのやまと強化合宿

緋色 side

現在午後七時。

明久たちが覗きにいく一時間前。

「今日はどうする雄一、」こっちも作戦を立てないと同じ田舎に遭つよ。

「

見てて可愛そうだったしな。

「手は打つてある。」

さすがといいたいが、たぶん無理だ。

「おい、坂本、なんだよ用事つて？」

なぜなら最低クラスの男子達だから。

「おまえ等、女子の裸見たくないか？」

絶対乗るだろ！ こいつ等なら。

「詳しく聞かせろ！」 × 4 4

今日も観戦するかな。

「ちなみに俺達の頼みを聞いてほしい。」

何故？ このタイミングで？

「尻に火傷がある女子を探してきてほしい。」 × 3

こいつらにそんなこと言つたら…

「お前等の性癖はイカレテやがる！」 × 4 4

思つたとおりだな。

「違う、それさえ見つけてくれたらいいんだ。」

「俺達に任せろ！」 × 4 4

明久達はどうするのだろうか？

「俺達は観戦しに行くか。」

自分は戦わないんだ。

「そうだね、行こうよ、緋色達も。」

答えは…

「行かせてもらう。」

どうなるだろうか、地味に結束力あるからな。

第94話 バカとのやせと強化宿2

(前書き)

忙しくて一日一話があつくなつてきました。最低でも週一はしようと
思います。

第94話 バカとのぞきと強化合宿2

緋色 side

勝敗も気になるが、あいつらの作戦とかどうなんだろうか？

「サーーチ！ and！ デエエエエス！」 × 44

頭が相当おかしいな、最低クラスといつても「こじまでは普通ないはずだ。

「五飛、教えてくれ、俺の常識はズレてるのか？」

「むりん、俺達が正しい。」

理由は俺達が正義だからだ！ とでも言つだらう。

「倒した奴はどう扱つても構わん。触りたい奴はさわつとけ！」

須川、それはあんまりだ！

「おい、雄一、あれでいいのかよ？ 雄一？ おいどうしたんだよ？」
そういうや明久達三人は他の場所で見てたな。おそらく巻き込まれたのだろう。

「ぐわああああああああ！」

前言撤回。処刑されてたようだ。気の毒に。

「緋色、逃げて！ そつちに秀吉のねえさ」「明久、儂と話さないで誰と話してるのじや？」「ぐわあああああ！ 痛い痛い、緋色の骨折治療より痛い！」

優子が来てるのか。さてどうするものか？

「デュオ、結果を後で教えてくれ。急用が出来た。」

side out

雄一 side

ちつ… 翔子にまったく気づかなかつた。くそ、最悪補修にいかない
ように思つたがしかたない。

「お前等、理想郷まで共に駆け上がるぞ！」

「オオオオオオ！」「× 45

第95話バカとのやまと強化合宿3

緋色 side

優子はどうじょうか？逃げるのも捕まえるのも出来る。感情に従つても迷つてしまつ。こんな時にエピオンかゼロがいたら…だめか。あいつらは何も言わない。しかたない待つか。戦闘にはならないはずだしな。

「緋色、やつと見つけた。」

あんまり逃げてなかつたが…

「何のようだ？」

「あなたが覗きに参加してなかつたらどうじてるのかなつて思つて。

俺達を除いて覗きに参加してるからな。

「お前は防衛に参加しなくていいのか？」

「あたし一人ぐらり大丈夫よ。といひで緋色は女性の体は興味ないの？」

「そんなこと考えたことがない。そしてそんな事考えたら、お前が

関節外すだろ？」

戻すのはできるがだるい。

「たしかにそうなるわね。」

「そして反射的にお前の関節外すかもな。先に。」

「確かに一般人とは違うもんね。」

アディンとかに鍛えられたしな。

「優子、お前はどうするんだ？」

「緋色と一緒に寝るだけよ。」

「why? 何故なんだ！」

「先生の許可はあるわ。心配しないで、吉井君達もよ。」

学園の長に対しても脅迫したか…

か、勘違いしないでよー！学園長室でビームサーベルなんて使つて

ないんだからねっ！

一般的の女子高生が学園の長に脅迫。

第96話バカとのぞきと強化合宿4

緋色 side

さて、ババアを消すか、明久を消すか。どうするかな。

「優子、俺は用事を済ませてくる。」

女子の方につけばいいか。

「どうせ、覗きを防ぎに行くんでしょ？あたしも行くわ。」

優子がいると予定より早く済むな。

「優子。とりあえず俺は全員を灰にするつもりだ。先生含め。」

「高橋先生に勝てるわけ…」

堂々と戦えば難しいが破壊工作員は効率よく任務をすこしうするからな。

「優子は男子を頼む。俺は女子の頭を潰す。」

「下手したら突破されるわよ。」

問題ない。

「まあ、行つてくるわ。」

優子さえ大丈夫ならいいからな。さて、姫路や霧島から潰すか。

side out

雄二 side

チツ、木下姉まで来るとは。今回は…

ドンードン！ドカーン！

何だあのビーム何処から？翔子や姫路がやられてる。たぶん緋色だな。あとで…

「伝令！何処から狙撃され味方敵損害大です。」

あいつ男子も敵に回す気か？計算外だ。

「伝令！敵味方問わず大損害です。しかし敵の確認できません。」

デュオもか…なら、

「伝令！大量の弾丸が敵味方問わずやられてます。」

ええい！トロワだな！

チツ！木下姉もいるのに。あと一人も動くだろ。

第97話 バカと夜と強化合宿

緋色 side

「デュオとトロワが動いてくれたのか！カトル、五飛もきてくれ。

「あいつら、敵だったのか？ということは木下姉もか。」

さすがは雄一か。だが甘い。

「坂本、吉井、土屋、貴様等は完全に包囲されている。おとなしく投降しろ。」

ゼクスを呼んだから。

「チツ、厄介な奴まで来やがったか。」

「安心しろ、私はテストしにきたのだ、こいつらの。」

確かにモビルドールだ。ビルゴーとトーラス。

「おい、無人機は卑怯だろ。」

それは同意する。じゃあ、明久から。

ドーン！

「ギャアアアアアアア！かつてのバスター・ライフルの痛みがああああああ！」

そういえばファイードバック付きだったな、すまない。

「明久！チツ、緋色、出てきやがれ！」

そうだな、出ようか。

「おらおらー、死神様の御通りだー！」

ザクッ！バタッ！

「ムツツリーー！」

「…気配が感じられなかつた。」

なんせデスサイズだからしかたない。

「チエックメイトだ、坂本。諦める。」

これにて終了だな。

だが、俺は大事なことを忘れていた。

部屋に優子がいた。

第98話バカと夜と強化合宿2（前書き）

久々の前書きです。やっとテストが終わりました。更新スピードが上がるかもしれません。

第98話 バカと夜と強化合宿2

緋色 side

「おかえりなさい、緋色」「壊れてる！優子が壊れてる！」

「明久ー！」

あいつ、ヒィードバックだけじゃ足りないのか？

「すまない優子、ちょっと用が…」

「あたしは大事じゃないの？」

上目遣いだと、卑怯すぎる。これがデュオ曰く最終兵器の一つか？

「もちろん大事だ。」

もし、ゼロもこう言うだろ？

「もしもしゼクス？明久を受け取りに行きたいんだが？」

さあ、ツインバスター・ライフルのテストでもするか。

「優子、少し待っててくれ、変質者を消していく。」

「あたしに任せて。」

そういうや、関節技のプロだしな。

「ああ、よろしく頼む。」

さあ、処刑を見に行くか。

教育指導室

おしおき部屋？だろうか？まあいい。

「失礼します。」×2

やはり鉄人、ゼクス、あと一人はトレーズ？

「何故貴様が生きている！」

全員首を傾げてる。

「久しぶりだな、ヒイロユイ。」

優子が会話についてきてない。

「ヒイロ、そここの女子はどうしたんだい？まさか拉致したのか？これ以上失望させないでくれ。」

黙つてたら色々こりな。やつぱり。

第98話 バカとトレーズと教育指導

トレーズ side

まさかここに全員集まつてたとは思わなかつた。ヒイロの少女拉致の件も。

「ところで何でいるんだ?」

ああ、ミリアルド以外には言つてなかつたな。

「私は強化合宿の時に教師になつたのだよ。」

「お前は一年間も何をしていた?娘が暴走してたのに。」

まあ、ニユースで見ていたが、

「君達がいるから大丈夫だと思ったのだよ。いろいろ見てきたな。例えば:須川、来てくれ。」

ゼロの予測では須川に明るい未来は無い。

side out

緋色 side

「こんな感じに。」

「といって須川を殴る。おかしくはない。ベチョツ!」

違う、須川の肉が飛んだのでは無く、トレーズが須川を骨付きの生の鶏肉で殴つた。

ある意味で痛いな。

「トレーズ、お前に何があつた。」

「何もないよミリアルド。西村先生はお休みになつてください。明日も奮闘されるでしょうから。」

まさか、精神の向上だらうか?完全平和への。

「トレーズ、レディアンまで来ないよな?」

の人来たら、明久達不登校になるかもな。

「 」 は、学力で戦うのだわ。 私にふさわしい。 緋色、 明日、 楽

しみにしておくよ。」

ババアに召喚獣を強化してもらおう。

第9・8話バカとトレーズと教育指導（後書き）

鶏肉の元ネタは中村文昭さんの講演からいただきました。

第99話ババアと交渉と召喚獣（前書き）

もつじき100話連載したことになります。中途半端な所で一回区切らせていただきます。何か案がある場合はよろしくお願いします。

第99話ババアと交渉と召喚獣

緋色 side

トレーズまで来たら、一筋縄じゃ行かないな。さて、明久にツインバスター・ライフルを試し撃ち出来なかつたし、ババアに脅迫しに行くか。

「緋色、これからどうするの？」

仮にも優子は理解してくれているはずだ。

「優子と同じように、ババアの脅迫でもしようと思う。」

優子が焦つてるな。何故かといふとここは廊下。一般生徒達に聞こえるかもしれないからだろう。

「あ、あたしは、きよ脅迫なんかしてないわよ！」

焦りすぎだな優子は、戦争だつたら軽く死んでただろうな。まあ、優子は死なせないがな。

「優子、来たいなら来ていいが、そうじゃないなら寝てろ。」面倒事が起きて欲しくはないが…

「あたしも行く。」

やつぱりそうなるか。

「なら早めに済ませるか。」

「失礼します。」

「ここは学校じゃないから待つ必要はないはずだ。」

「地球を救つた英雄とその彼女が一体何のようだい？」

「英雄か。正しくは大量殺戮を行つた兵士の償いなんだが。」

「俺達の召喚獣の強化を頼む。トレーズやゼクスにも頼まれている。」

「その代わり条件があるさね。600点以上取れたときのみだがね。」

600が、無理じゃないな。

「ありがとうございます。」

第100話 級色といい手といい宿の夜（前書き）

次回から100話記念でも書いつと思ひます。もしかしたら続きが気になる方がいるかもしませんがご了承ください。

第100話 緋色と優子と合宿の夜

緋色 side

あとは寝るだけなんだが、正直言つて寝なくてもやつていけるが、少しでも人間らしく生きよう誓つたからしかたない。

「優子、俺は先に寝ておく。明日に備えてな。」

昔ならこのみたいな台詞を言つ機会は全くなかつたな。まあいい、寝るか。

side out

優子 side

どうしよう、緋色が寝ちゃつた。あたしも寝ようかな？
でも、同じ部屋だからなにが起きてもいいわよね？

よし、決めた。緋色の言つとおり感情で行動しよう。

side out

緋色 side

何か音が聞こえる…まだ優子は起きていたのか？…りあえず起きて、状況の確認を…

優子が浴衣を脱いでる姿が見えた気がした。

「優子、おまえは何をしている？」

「え？ 緋色起きてたの？」

いやいや、先に寝ておくと言つただろう一時間前に。説明しておぐ

と現在一時半、寝た時間は1~2時半である。

「寝ていたが、音が聞こえて起きた。何をする気だつたんだ？」

「あたし、前に言つたじゃない、子供が欲しいと…」

そうだったか？名前は聞いたが……

「それでね、折角の機会だから今夜、しようと思つて……」

何を？と聞くまでもない、優子は子供が欲しいそうだ。確か高校生はまだ駄目だったはずだ。

第100話 紺色と優子と合宿の夜（後書き）

今回、縦が長くてすみません。中途半端な気もしますが次回から話を変えようと思います。もちろん終わったら、強化合宿に戻りますけどね。

第100話記念緋色と優子と座談会（前書き）

バカと墮天使と召喚獣、百話達成！お気に入り件数31！
イエーイ！ドンドンパフパフ！
一人で何盛り上がってるんだ？と思っていると思うので、スタート
！

第100話記念緋色と優子と座談会

連載百話記念座談会

「司会は今作主人公の緑川光と、」

「その妻、木下優子と、おまけに…」

「作者でお送りします。」

閃「緋色、自分の名前はちゃんと名乗れ。」

緋「緑川光じゃダメなのか？」

優「ダメに決まってるでしょ。あたしの夫なんだから。」

閃「このイチャつきまくつてる、二人は置いといて、いろんな方にインタビューしていこうと思います。というわけで…」

三人「最後まで、よろしくお願ひします。」

閃「まずは、原作の主人公、吉井明久の第一印象は？」

緋・優「天下一品のバカ」

閃「分かりやすい答えですね、では次…」

明「待てー！何故主役の僕とメインヒロインの秀吉が呼ばれてないのさ！」

いやー、それは

閃「主人公緋色で、ヒロイン優子だし。」

明「この一人の出会い酷すぎなくせにメインだと…」

緋「まあ、作者の文才の無さは同意するな。」

閃「酷いこと言うな、おまえは。デュオの言つてた事は本当だな。人の嫌がる言葉を選ぶセンスは

緋「で、次は誰だ？」

優「デュオ君達じゃないの？」

閃「残り少なくなったので、次回のお楽しみに。」

■ 話記念座談会2（前書き）

職場研修が木金あって、あれこれ忙しく投稿できませんでした。

閃「それでは、坂本夫妻の『』にゅーじょーです。」

雄「待て！勝手に入籍させるな！」

翔「夫婦：嬉しい 作者はいい人。」

緋「なんか、恒例のネタだぞ、『』についてに關する感想は早く入籍しないと迷惑だ。」

優「あたしは、坂本君は外道鬼畜の大変態で、代表は坂本く…なんかめんどうかいわね。一途だなと思いました。」

雄「オレがいつたいなにをし…」

閃「あー、ちなみに、雄一は他にか…。悲しいが…さよならだ。」

翔「雄一、浮氣したらキリストのようにキイリする。」

雄「ふざけるな！覚えて矢がれ！」

閃「嘆いても遅い。」

三人「ありがとうございました。では、次の方。」

デ「おい、緋色一、お前、またこんなことしてんのかよ？」

優「また？」

力「緋色つてばボイスカセットを…」

デ・カ「ボイスカセツ チュ！」

緋「ゼロの『写す未来にお前等はいない、ここだ…』」

優「待ちなさい緋色。とりあえず用件を済ませましょ。」

緋「デュオはバカ、カトルは弱虫又は破壊の化身。」

ト「そういえば、五飛がいないな。ナタクについて聞いたかつたが…」

デ・カ「ガンダムを愛してた話？」

ト「違う、あいつの妻だ。」

緋「確かに、トールギスに乗つて体中骨がバキバキ折れた」

? 「何をしている!」

緋「なんだ、来てたのか、五飛。」

優「骨がバキバキつて何があつたのよ?」

五「ナタクか? あいつは俺が14の時の妻だ。敵に特攻され、自爆に巻き込まれそうなつた。」

デ「なんかわりいな。イヤな話させてよ。じゃあ、司会はウォーリアオブライトと言われる俺の技術を…」

五・緋・ト「くだらん嘘はやめろ。」

閃「では一人について…」

緋「無口とバカだ。」

優「残念ながらあたしもよ。」

? 「実に楽しそうではないか、我がともミリアルドよ。」

ミ「私はミリアルドではない、windだ、トレーズ。」

ト「久しづりかな、諸君。」

w「トレーズ、お前に会つたのはこの内、私入れて四人だけだ。」「ト」ミリアルドよ、良いではないか、今は同じ建物で暮らすのだから。

ミ「決着をつけるぞ、緋色!」

緋「未来は見えているはずだ!」

ガンガンバチバチ

緋「緋色とミリアルド先生何を?」

ミ・緋「ガンプラバトル!」

ト「五飛、第三回戦目を始めよつではないか。」

五「いいだろう、俺に倒された奴が悪だ!」

優「とりあえず、無茶苦茶な座談会でしたが、読んでくださいありがとうございました。」

優・閃「次回? もお楽しみに。」

【五話記念座談会③（後書き）

なんか無茶苦茶でしたが、とりあえず座談会は終了。次回からオーリ話です。感想や願望、アドバイス等あつたらお願ひします。

101 話夜の危険

緋色 side

「緋色、だから、よろしくね。」

「断る。」

「ちょっ、待つて。」

待てといつて待つのはカトルとバカぐらいか？

ところで、もし、気づかなかつたら俺は…

危ないからやめるか。

「緋色じゃないか。やっぱり持つべきはともだ！」「×3

あいつらもまさか…そんなわけな…

「童貞を捨てられそうなんだ！」「×3

まったく同じ境遇の奴がいるとは思わなかつたな。

「分かつた。生憎俺も同じだ。」

「貴様等！こんな時間に何をヤツトルカアアアア！」

途中から魂が叫んでるよつた気がする。こいつら、女子でも襲つたのか？

「「「そんな訳ない！」」「

それはそれは、大変ですね。ツインバスターライフルで何処までやれるか、試すか。

「緋色、無茶だよ！」

確かに危ないが…

「俺は死ない！」

無理だつたら、近接戦しかないが。

「緋色、鉄人は フィールドがあるんだよ…」

くそ！逃げるか。

「また会えることを祈つてる。」

とりあえず、トレーズかゼクスの所へ。

102話夜の出来事（前書き）

しばらく投稿せすすみません。個人的な都合等あつたもので
とりあえず本編に。

緋色 side

人間が熱を跳ね返すのはさすがに酷くないか？鉄が軽く溶ける程度だとしても弾かれるのはおかしすぎる。

「待てえええええ！」

ああ、デュオに連絡よこしておけば良かつたな。
バン！

誰だ！こんな時間に彷徨いてるのは？

side out

翔子 side

「緋色？」

「大丈夫か？立てないなら助けるが…」

なんか、体が熱くなつてる。あの時と同じだ。雄一が私を救つてくれた時と。でも何故？

「どうした？顔が赤いが、熱でもあるのか？」

熱？違う。これは熱なんかじゃない。

「とりあえず、送つてやる。」

「…ありがとう。」

何故かとても嬉しい。雄一と一緒に過ぐすときよりも…

「いつたいどうした？さつきから、下向いているが、何かあつたか？」

？」

その答えは分からない。

「緋色はいつたいなにを？」

優子と一緒に散歩でもしてると思つたけど。

「優子から逃げてたら冥碑…じゃなきなて明久とムツツリーーと雄二に会つたあとに、鉄人に遭遇し、また逃げただけだ。」
だけじゃない気が。

翔子 side

「緋色、今夜は私と一緒に居てくれない？」

「俺は構わないが、優子を落ち着かせるのを手伝ってくれないか？」

「そういえば、逃げてきたって、いつてた。」

「ミリアルド、なかなか面白いものが見えるのだが。」

「まったくだ、愛の逃避行など。私など、家族と別れてまで逃げた
というのに。」

確かに、先生のかな？らしくない雰囲気だけど。

「おい、ゼクス、連合に対する愚痴を俺達に向けるな。後、そういうことをした覚えがない。」

まあ、疑われるのはしかたないかもしれない。

「緋色、これ以上私に失望させないでくれ。
ビュン！」

キン！

「トレーズ、剣など持ち込むな…ターゲットロック、破壊する。」

緋色が銃のような物を構える。

「緋色、やめる。霧島も巻き込むことになるぞ。」

この人達は一体何を？

「トレーズ、彼女は霧島財閥の一人娘だぞ。」

何故、先生が、担任でもないのに、個人情報を？

「ゼクス、暇だからってハッキングは駄目だろうが。学年主任に聞けば済んだのだろう。」

先生つてハッキングできるんだ。

「所で、西村先生は人なのか？熱を弾くとか 帝のフレアみたいな扱いじゃないか、もしかしてガラスなのかあいつは？」

分からない。

104話夜に女子と逃走（前書き）

実は、ｐｓｐで更新していたのですが、ぶつ壊れてネットが出来る
状況じゃなかつたです。ちなみに弟の奴を借りてます。

104 話夜に女子と逃走

翔子 side

「とりあえず、君達は此処にいていいのかな？西村先生が来たら終わりじゃないか？」

「問題ない、妖怪ばあを脅迫していた。」

問題ありすぎるこの人達は。

「トレーズ、二人の浮氣を邪魔するな、今度は馬に蹴られて地獄に行くかもしれん。」

本当にこの二人何者？

「それでは、また会おう。」

あの金髪の人、ゼクス？不思議な名前だけど、知り合いかな？何とかで見た気がする。

「帰つたぞ優子。」

「やつと帰つてきた？」

「そうか、そういうえば普通私は此処にいない。」

「代表？何で？」

死んだ人みたいな扱いはやめて欲しい。

「変人に襲われかけてたから助けただけだ。」

知り合いを変人扱い？

「デュオとか、異端審問会がいたのに忘れたのか？すまないな、霧島。」

何故か名字で呼ばれると少し悲しくなる。彼限定だけど。

「とりあえず、優子、いいだろ？」

「私はいいけど、寝なくていいの?」

「ずっと起きてるみたいだつた。」

「わかった、しっかり30分寝てくれる。」

「パシーン!」

「痛いな、優子。俺はなにもしてないぞ。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4729v/>

バカと堕天使と召喚獣

2012年1月10日22時51分発行